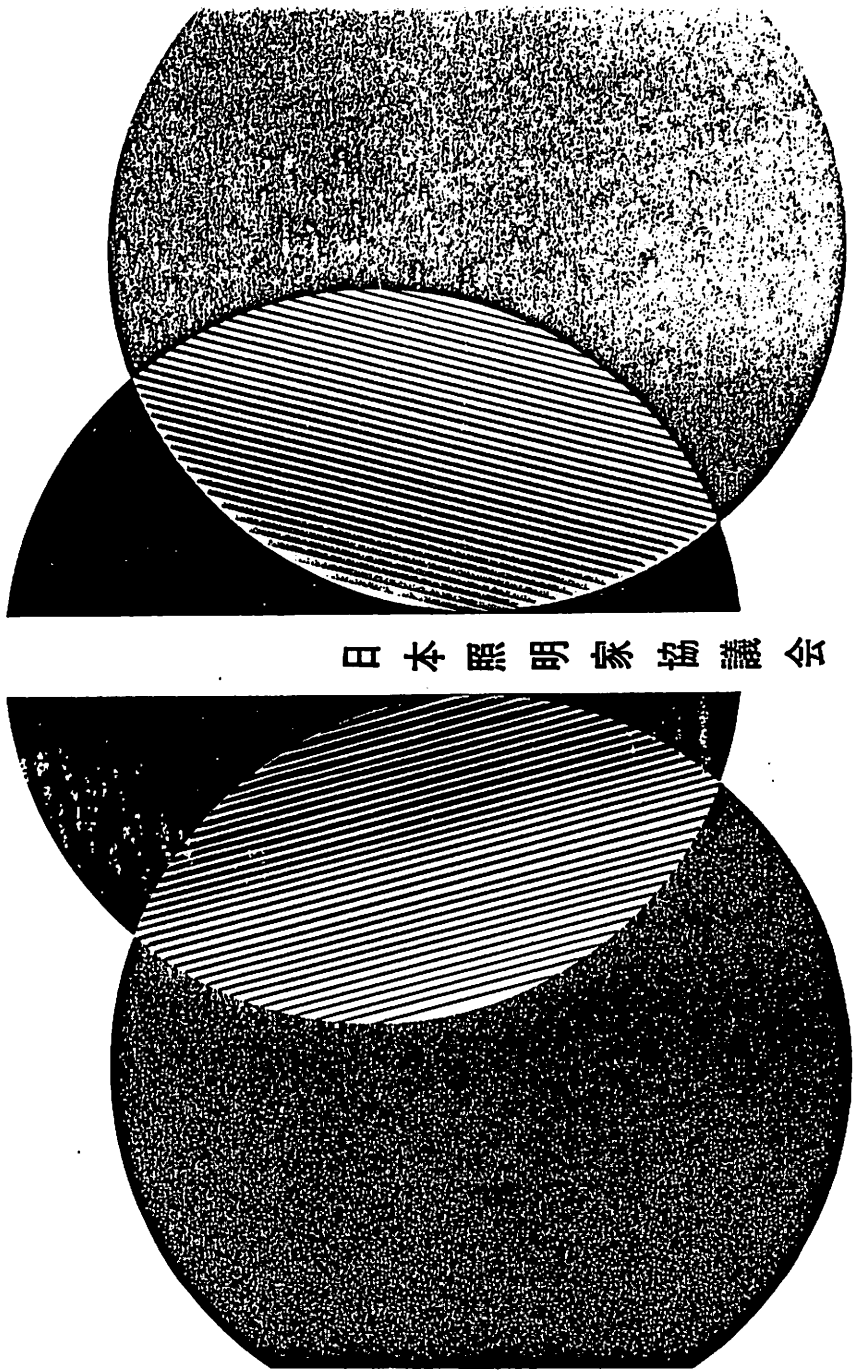


報 會

4

日本照明家協議会



目次

特集

照明への註文...白井鉄造/林 佛三/茂木草介/板坂晋治
村山知義/法村康之/内海重典/岩田直二 2

中国の人々.....名古屋 若尾 正也 4
舞踊家の照明談義.....創作舞踊家 神沢 和夫 6
カラーTVの原理と照明 YTV 岡田猪之介 10

特集・脚光を浴びたSCR調光装置とは!!

I 半導体調光器.....千日劇場 宮本 修 14
II SCR調光の操作手法.....東芝電気 瀬川 泰男 18
III SCR・SCR・SCR?.....大阪厚生会館 木本 敏夫 21
IV SCR自動調光装置.....松下電器 西村 政夫 27

故 神保道臣・上條甲午両氏追悼特集

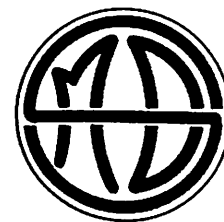
• 経歴 など.....神保 操 30
• 照明十談.....神保 道臣 31
• 舞台照明は曲芸ではない..... " " "
• 神保君のこと.....遠山 静雄 32
• 神保君に謝まる.....小川 昇 "
• 神チャンを憶う.....越山 達 "
• 上條甲午殿の思い出.....前田 二郎 33
• 父のこと.....御影あい子 "
• 空即是色—神保さんのご冥福を祈りて.....岡田猪之介 34

大阪府厚生会館文化ホール設備概要.....木本 敏夫 25
私の履歴書.....若尾 正也 28
照明器具名称記号の制定について.....大庭 三郎 38
折込み・舞台テレビ照明器具名称記号...日本照明家協議会 39
日本照明家協議会規約..... 35
協議会議事録..... 23
三団体だより..... 36
三団体役員名簿..... 47
三団体ブロック別会員名簿..... 41
表紙(表裏共).....板坂 晋治

舞台照明・舞台吊物

調光

オート・トランス式
S C R 方式



株式会社 松村電機製作所

本社営業所/東京都文京区根津宮永町22 TEL<821>6161(代)
大阪出張所/大阪市北区真砂町3(真砂ビル) TEL<361>9421
本社工場/東京都葛飾区金町2-637 TEL<607>2166(代)

照明への註文

演出家から 照明家へ

林 悌三

今回新しい試みとして、芸能界に活躍しておられる諸先生方から、次により照明についての種々なお声を、録音してみました。日夜非常に御多忙の中を、私たち仲間のために、貴重なお言葉をお寄せ下さいました諸先生方に、改めて厚くお礼申し上げます。尚此の計画は、もっと広範な分野に続けたいと存じますので、皆様方の御協力をお願い致します。

冠省

貴方様には益々御清栄の御事お喜び申し上げます。

規、此度日本照明家協議会々報第四号発行に際し、照明の開発向上のための貴重な資料・教訓と致したく存じますので、誠に御多忙の御恐縮ですが「照明への註文」として貴方様の御意見御希望を賜わりたく、返片に何卒御記入の上御投稿お願い致します。

日本照明家協議会

東京代表 小川 昇
中部代表 柘植 貞輝
関西代表 岡田猪之介

白井 鉄造

照明の設備も、最近は随分と発達し、精巧になって、色々なテクニックを使えるようになりました。しかしこの機械の発達とは別に照明の役割は、益々大きく重要になって、今は照明が舞台上に明暗をつけたり、色の光で染めたりするだけでなく、照明が芝居の演出の生死を握っている時代になっています。役者がセリフを言い、動き回るだけのお芝居に加えて、照明が、役者と共に、セリフを言い、動き回る芝居をすることが必要となって来ているのです。

だから照明家は、これからは今までよりもっと作品の内容に突込んで仕事をする共同演出家であるべきだと思います。

私たちが、役者を使うように、照明家は機械を使う演出家ですから、限りなく発達する機械を見るにつけて、今後は益々照明家の仕事は重要で、今迄の、脚本・演出のための照明が、照明のための脚本・演出という企画が立てられるようなことも有り得ると思うと、これは照明家の楽しみということ許りではなく、観客としても大変嬉しいことだと思います。

茂木 草介

これは註文ではありませんが。いまNHKのカラー放送で、色の採択と設計と構成にすごく意欲的でありかつ効果をあげているのがあります。「若さとリズム」という番組です。これは通常のドラマではありませんが。ほくは以前から、舞台劇や放送劇が些末な日常的リアリズムに墮ちているのを嘆いて

ます。照明と脚本、あるいは装置と脚本だけで劇的なエレメントを醸い上げる。そんな時代が早く来てほしいと思います。

(作家)

板坂 晋治

舞台画面一杯に投影される強烈な鮮明な幻灯効果。

光(照明)と造型(デザイン)のより以上の共同による積極的な技術開発。——その一例として「ドロップ面の幻灯化とそのライトチェンジの画面転換」そういったことが、いろんな作品内容・劇場機能で実用可能な機具の研究。

——さしづめそんな手近なことをのぞみます。(装置家)

村山 知義

照明の設計者の技術は進歩していますが、そのプランを実施する操作者が、なかなかプラン通りに操作できず、ことに大事なキック、カケをトチルことが多い。これはやはり、舞台げいこ以前にけいこを見て、脚本がどういう脚本で、それがどう演出されるのかを全く知

故 法村 康之

らず、舞台げいこに、初めてアツかるから、初日、二日目になっても、その芝居に溶けこめなためです。改善を望みます。

(演出家)

ホリゾン트에映る雪や雲や雨が、アーク燈に消されて効果があらがない。私の知友高橋

佐輔氏の発明になるブラックスクリーン(黒色の映写幕)をホリゾン트에活用すればストライドも鮮明で、アーク燈に消されることがない。もし之を使用するならば、映画による動く背景も可能である。近代的な演出には照明の力が大きく左右する。

照明技術、照明感覚ではアメリカと日本が世界をリードしている。もう一つ進んで、この研究をして欲しい。パレエの効果、演劇の効果は期して待つべきものがある。スライドによる、映画による背景が可能な場合、大道具の製作もある程度不要になるが、如何なるのであろうか。

(舞踊家)

内海 重典

レビニー、ミニウヅカルでは、決して日本

(演出家)

岩田 直二

の照明はおかれているとは思いません。立派なものです。オペラは、向うではプロセニウム・アーチ内の照明で雰囲気を作り出しているようです。日本ではS・Sなどはおかれているようです。猶、雲其の他のエフェクトは完全に負けています。効果のあがるものを考案されたいと思います。

関西の照明家の人達にしか接していませんので、そこで感じていることを申し上げます。私達の場合、装置家、衣裳、その他を含めて演出上の研究・検討が大変不足していることを痛感しています。照明家の人達に望みたいことは、一個の技術者として自分を固定しないで演出の領域にもっと踏みこんで欲しいことです。それと、もう一つ、現在の会場機構は不十分で、また不統一ですが、その不十分さという条件から照明プランを創り出すのではなく、その条件をどう生かすかに、最大の知恵をしぼり出して欲しいことです。

以上

(演出家)

中国の人々

若尾正也

中国に入つて、何よりも先づ私を驚かしたのは、国民の質素な生活でした。

つぎはぎのあつた作業服、破れかけの布靴、北京の大通りを通る馬車、三輪自転車の荷車、リントク、上海では三人から五人もかかって引いている人力の荷車。電気洗濯機もテレビも冷蔵庫もない生活。始めは、戦争中の中国へまた来て了つたのではないかと云う錯覚に捉えられた程でした。

お下げてズボンをはき、簡単な開襟シャツ風のブラウスをつけた女性たち。殆んどが申し合わせた様に白の開襟に作業ズボンの男たち。

所が、二日、三日とたつて行く中に、豊富な野菜、肉、丸々と肥つた子供たち。到る所、満員の劇場、映画館。そして夜おそく迄も安心して散歩を楽しむ若い男女。ヨタ者のいなない街。私達に見せてくれる親切な、卑屈さの影さえ見えないうるい笑顔。一体この人達はどのような人達なんだらう。

だんだんに民衆の生活の内容を知ること、益々この驚きは強くなりました。

私達はある日、瀋陽(昔の奉天)の労働者のための住宅街、労働者新村を訪れました。案内してくれた人が、「どこでもよいから勝手に入つていつて話をしてくれ」というので、私達は分れ分れに勝手な家に入りました。

劉喜福さんの家が一番はじめでした。八畳か十畳位の部屋で、大きな寝台が左右に、中央に小さい机と小さい腰掛け。別に、共同(二軒で使用)の炊事場と便所があります。建物全体は三、四階の大きな煉瓦建てのアパートです。劉さんは三五歳、冶金機械修理工場の労働者。家族は奥さんと三人の子供、五人暮し。

丁度、一番下の子(三つ位か)が寝ていました。月収八八円(日本円で一三、二〇〇円)。月の家計費は、主食約三〇〇円、四、五〇〇円、副食二〇〇円、三、〇〇〇円、家賃は、電気ガス水道を含み八八円(一、二〇〇円)。入浴は御主人は工場ですませ、家族は共同浴場に行く。湯銭が一ヶ月小人一〇銭(一五円)大人が三〇銭(四五円)。その他いれて大体の一ヶ月の経費は六五、六六円位(八九、七五〇円)。

劉喜福さんの家が一番はじめでした。八畳か十畳位の部屋で、大きな寝台が左右に、中央に小さい机と小さい腰掛け。別に、共同(二軒で使用)の炊事場と便所があります。建物全体は三、四階の大きな煉瓦建てのアパートです。劉さんは三五歳、冶金機械修理工場の労働者。家族は奥さんと三人の子供、五人暮し。丁度、一番下の子(三つ位か)が寝ていました。月収八八円(日本円で一三、二〇〇円)。月の家計費は、主食約三〇〇円、四、五〇〇円、副食二〇〇円、三、〇〇〇円、家賃は、電気ガス水道を含み八八円(一、二〇〇円)。入浴は御主人は工場ですませ、家族は共同浴場に行く。湯銭が一ヶ月小人一〇銭(一五円)大人が三〇銭(四五円)。その他いれて大体の一ヶ月の経費は六五、六六円位(八九、七五〇円)。

アメリカから、いやその他に欧米の自由世界からも無数に訪中しお客様になっていきます。その数は大変なものでしょう。自分達が節約して質素な生活をしながら、このお客様たちには大変な温かい歓待をしています。人民は明るく笑って、よろこんでいる。日本だったら、「政府は一体何をしているんだ。」と文句の一つも出ると、全くとこの人達はどのような人達なんだらう。

ついでに、労働者の賃金をお話ししましょう。細かく調べた訳ではないので多少間違ひがあるかも知れませんが、私の直接聞いた報告です。

労働者の賃金は、一級から八級に分れています。(大学教授は一級から二十何級とかいていました。)これはどの工場でも同じです。しかし工場によって級の賃金が多少違つてゐる様です。職種によるのか手当的なものが違ふのか不明です。一例をあげますと、

工場名	一級	八級
沈陽電機工場	三三三円	一〇四円
重慶機械工場	三三三・五円	一〇八円
北京紡績工場	三三三円	一〇〇円

技術員は四四〜二二〇円位。技師は七六円〜一八〇円位。

勿論労働者の中から、ほとんど技術員になり技師になつて行きます。工場は大體、自分の業余学校をもつていて、大きな所は、大学程度のももあり(下は保

育所、幼稚園から)更に必要に応じては工場から北京大學に迄、派遣してくれま

学校で思い出すのは、撫順老虎台炭鉱の所長です。四五、六歳でしようか。生き生きとした眸のこなしから、明るい眼差し、気持よい笑い。如何にも元氣一ぱいな、技師で文化人を感じました。彼は、元氣よく話してくれました。

上海の労働者の子として生れた彼は、当時小学校へ一年か二年、それも曲りなりに行っただけで、父親と同じく最下層の労働者の群に入つた。解放されたあと、労働を続け乍ら学習が始まり、やがて工場の業余学校で、次々に中学、高校の程度の学習がそなわつて来た。炭鉱に来て、業余大學に学び、更に、老虎台炭鉱から、北京大學に派遣された。その四年間は、炭鉱から全給料をそのまま支給され、その上奨学金さえうけた。そして本当に幸せなことに、彼は心から嬉しうに笑つた。私達の子供達は、北京で学校に入りました。そのあと彼は今、この所長として勤務している。新しいインテリ、労働者出身のインテリゲンチヤを、私は目の前に発見しました。これだ、これがそれだ、何か胸のつまる思ひで見つめていました。

医療費は一切が国の負担で、学費は必要を人(経済的に苦しいとき)には免除します。老後は(停年は六〇歳です)それ迄の月収の六〇%が終身年金としても

二〇円(三、〇〇〇円)位を貯金して時には衣類を買つたりする。奥さんは別に働かないでも困らないし、子供がいるので今は働かずにいます。この家には、ラジオ、時計、シンがりました。多分、御主人が自転車で出勤していたのでしょ。時々旅行に出たりするらしく壁に小さい写真が沢山貼つてありました。可愛らしい子供の面と、誇らしげな労働模範の賞状が目につきました。

許さんは、この家と共同の隣室です。この方は少し狭い様でした。住宅建築会社の練瓦積工。三八歳。奥さんと二人暮しです。奥さんは、ゴム工場の食品管理係。収入は御主人は七〇円、奥さんは三八円、合計一〇八円。月の支出は五、六〇〇円。別居している許さんのお父さんに毎月二〇〜二五円送っている。貯金は月一〇〇円位、あと残りは衣料などにあてて。ここは共稼ぎの二人暮らしのせい、割と豊かに見えました。文化生活としては、毎週一回以上、劇や映画を見たりしている。一番好きなのは評劇(東北地方の地方劇、京劇に似たもの。今は現代物をや

らえます。身寄のない人のためには各地に養老院があります。少い給料の中で不慮の災害、病気、子供の教育、老後の生活等々に締めつけられて不安に困まれる私達とは別世界です。

上海の或る民族資本家が話してくれました。「解放前は、病氣だとか商売の失敗だとか子供の教育とかの不安からセッセと外国銀行にドルの貯金をしました。そんなに氣を使つてやつた長男は大學の中にグレて了う。どうなることかと不安のまま解放時上海に居残りしました。所がどうです、解放後は、病氣をしてもお金はかからない、学校も心配ない、次男は、北京大學を出て今では立派に一人立ちして暮している。第一、長男の時の様に、街で暮しても、グレンなんぞの心配はすこしもなかった。今、貯金はいくらでも出来て了うが使い道もない位。昔のアクセクした不安な生活が今思つと嘘の様です。」

私達は別の日に、ある養老院を訪れました。六〇歳から九〇歳近くのおじいさん達がゆっくり暮していました。住居費と、散髪、入浴等は無料です。食費は自分で払つています。最低の人でも三五円位の月収があつて食費は一〇円位です。生活は老人達が自治的にきめ、時々一踏に見物にいったり遊びにいったりしています。老人達の日常は花をつくり楽器を奏で、暮をうったり、麻雀を楽しんだりしています。

「だそうです。これも時計ラジオシン自転車が揃っていました。李さんは別の二階。四九歳の工員、奥さんと三人の子供、五人家族。月収九〇円、一ヶ月の支出六〇円位、月三〇円位残り衣料にあてたあと貯金。」

と云う様を訳で、労働者は生活を普通にやつて一〇〜二〇円の貯金はしている。何しろ物価がどんどん下つているので、私達とちがつて、貯金にも張合がありません。勿論、私達の様に、なげなしの給料を払いたいても新しい靴が欲しい、新型の背広だ、流行のドレスだなんていうことは全くない、質素な生活です。そして貯金している。それはそのまま国力となり、中国は世界一現金をもっている国だと云うことになりました。

私達代表団が招かれて、三〇日中国を旅行すると、恐らく日本円にして一人六、七〇万円はかかりましよう。或はもっと必要かも知れません。私達旅行者の待遇は、質素な国民の生活から見たら別眺のゼイタクさで、しかも私達だけでない、東南アジアから、アフリカから、ラテン

麻雀といえ、別に禁止はされていない様ですが、余り見かけませんし、聞きもしませんでした。たった一度見たのは、この養老院だけでした。

黙々と質素な生活の中で、底ぬけに明るい瞳を輝かせているこの人達について私達がつい感嘆したときに、或幹部の人達から聞きました。「私達はそれが未解放民族の解放を有利にするのならば、どんな困難も犠牲もいといません。」そして「私達は約束はきつと守ります。」そして、その通り国民は、自分達の節約を、友邦の人民の幸福のために、喜んでやっています。「あの農産物に大損害のあった年でさえ、民族解放を闘っている各国への食糧の支援を絶つたことは勿論、減らしたこともありませんでした。」と。

一体どういふ人達だ。三〇日たつて今、何か分る氣がして来ています。政府と指導者を心から信頼している人達なんだと云うこと、そして、あのほう大な人民が信頼しきっている政府、指導者。

一体どういふ政府なんだ。そして、今、私はもう一度、「政治」ということ、「政府」というもののあり方を、噛みしめて考えています。(若尾綜合舞台研究所主宰)

舞踊家の照明談義

神沢和夫

この小論の意図は、照明の専門家である読者に、釈迦に説法の風をあえて試みようとするのではない。また、実作者の私が、理論体系をくりひろげるの不適任をさらけ出すのを恐れているのでもない。ひたすら、制作に専念する者の一人として、独断を恐れず、もっぱら正直の所を開陳して、そのひとりよがりなところが、かえって何かの御参考になればと思っている。それで、ここではまず、私の舞踊についての考えをのべて、そこから実際にどういう注文がひきだされてきているか、いくつかの未解決の問題とともに提出してみたい。

舞踊におけるラーバンの発見は、次第にダンス・アカデミックにもとり入れられ、またその理論は拡張され、今日の完全なものとなった。(ゲルハルト・ソマハリス：バレーP.190)

ラーバンの発見したものは、舞踊が空間の芸術だということです。近代的感觉という意味では、ダンス・アカデミックの現在の主流をなしているバレエの世界にも、新しいものは沢山あるでしょう。

しての必然性が九小節、六小節であれば、それに従ってもらうことになる。このあたりで一つの問題がでてくる。

私のある公演の時、照明プランが出ていて、そのプラン表のキニーの指示をたしかめながら、オペレーターが稽古に立ちあっていた。ところがこのオペレーターがひよひよいと首をひねる。私は気になるものだから、そっとそばへ寄って様子を見てみると、また首をひねってどうもおかしいという顔つきでいる。どうかしましたか、ときいてみた。彼のいうには、踊りをみてみると、このキニーより少しあとでシテニューションが変わると思うのだが、作者の考えはどうか、という。なるほど、指定の位置と、私が考えたきりかえの位置がちがっている。つまり解釈がちがっているわけだ。リハーサルでみましようというようになってその場は終わった。

この例が物語るように、舞踊家が、舞踊的な処理として局面の区切りをつけているものに、照明家は、照明の方法で区切りをつけてくる。そこそこの二つの解釈が、それぞれの専門的な見方と処理技術を背負いながらぶつかりあうわけだ。色の問題、明るさの問題を別にして、時間進行の上での区切りだけ問題にしても、すでに二つの芸術家の格闘がはじまっている。それが総合芸術といわれる舞台の面白さでもある。この時間進行の上での問題は、舞踊と音楽、舞踊と照明との関係

しかし、個々のバヤ、ティチエードが、象徴的意味合いをもつとされるバレエの運動が、たとえ空間的に美しいものであっても、それは、空間が主体であるということではないのです。

空間を創る。運動が空間を創り、その空間が舞踊の表現的意味を支える。この原理こそ、ラーバンの発見にかかるとのことなのです。ただ、それでは、運動の意味を支えるのは、身振りや描写でなくてはならないのか。毎日の研究所での実習の中で、毎回のリサイクルの作品づくりの中で、外側からの構図づくりと、その構図の中味を埋める運動をつくり出すことだけはわかってきました。こんどは、運動の内部から要求する空間へ拡大してゆくことが課題になります。このことは写真をつかうとよくわかります。写真はつながらなくても映画にはならない。一コマ一コマのフィルムは、パラマラにされている限り、静止した画面にすぎない。けれども、よい写真というのは、それが静止している限りでの均衡のよさだけではないでしょう。一つ一つのポーズがどれほどの運動指向性を内包しているか、にもよるものではないか。

で考えられる問題なのだが、もっと重要な、そして、舞踊と照明との関係の中心をなす問題がある。それは、舞踊空間と照明空間の問題である。

今ここに五間と八間の舞台があるとすると、タツバを三間としようか。三×五×八で二〇立方間の空間があたえられる。この限定は、芸術的な考えから問題とするにたりない。そこでつくりだされる意味のある空間だけを問題にするわけだから、そしてそのために、無限定を意味する黒幕を背景とし、明かりが背景の黒幕や袖幕にかかって、現実的な空間限定をひきおこさぬように考えるのだから。けれども、現在の劇場機構が、プロセニウムアーチを当然としてもっている以上、観客は、二〇立方間の現実的な空間との対比で物を見る見方を、一步その劇場に足をふみ入れた瞬間から強制されていることになる。その上、照明家には、機械の能力という限定がのしかかっている。この技術的な限定と、芸術的な無限定という二つの側面は、舞台をつくる者のつねに配慮すべき点となる。

所で、舞踊家は、運動によって、現実の空間を占有する。この運動空間に一定の空間を占有する。この運動空間は、人間の運動能力、特に跳躍力からみて、全体の三分の一をこえることはむづかしい。それ以外の残された空間は、運動空間との対比で生きたり死んだりする。照明家が支配する空間はそれより大きい。あらかじめ仕込まれた器具の位置

での動きが運動のモチーフの中から出てきて、それが空間を要求する。そこから舞踊の空間が生み出される。

「空間に賭ける」より
おおよそ、ことばによらない芸術を、ことばで説明することは困難な仕事で、特に、舞踊では、楽譜や脚本のような、再現のための手段も十分発達していないので、説明の手がかりが大へん困難を感じてしまう。最近舞踊の記録のための舞踊譜が注目されているようだけれども、それは記録のためではあっても、再現のためには不十分で、その譜法はまだまだ普遍性を獲得してはいない。それは何故かという点、音楽の場合だと、音階のつくり方が数比による客観性をもっているし、時間の進行の上でだけ成立する芸術だから、記譜法もまた客観的なものとして整理されるけれども、舞踊譜の場合は、時間の進行の上で成立していても、もっと舞踊的な本質からいって、筋肉の、いかえれば身体のプロポーション、舞踊空間の方向性、高さ、といった空間性に、より重要性があるので、この

はかわらないので、照明の支配する空間の大きさは余り大きく変動はしないが、光量と色彩の変化で、空間の内容は無限の変化が可能になっている。

さて、舞踊が支配する空間と、照明が支配する空間が、右のような具合だとすると、その関係の基本はどういうことになるのだろうか。照明が準備しておいた空間の中で、舞踊が自分の空間づくりをする。ということになるだろうか。

この考え方は、大方の御賛同をえがたにかに思われる。現在でも多くの舞台で演ぜられる舞踊が、一部のアバンギャルドを自称するものをのぞいて、ただもう華やかに、明かるいものであればよく、スター気取りの娘の姿をピンで追うといったことを、踊る側のまことに芸術的な要求として強いられる限り、照明家の側は、緊張する必要がないし、そうした馬鹿馬鹿しいおつきあいのくり返しは、いつとはなしに照明家の舞踊に対する姿勢を安易なものにしてしまっているだろうと思われるから。したがって照明家が、時折り緊張してプランを練り、頭をひねるであろう舞踊の舞台は、いわゆる新しい考えの台本があったり、衣裳や装置が新しかったりする、つまりは演劇的な、美術的な緊張にすぎないので、本当の舞踊的な、私流に言えば、みていて、作者の舞踊的な思考の展開を感じられるような、舞踊それ自体の展開法則の中で照明プランが展開されるといったこ

時間の二要素を、同時に満足させる簡明な記譜法がなかなか定着できないという。近代舞踊の父といわれるドルフ・ラーバンの記譜法(ラーバノーテーション)に示唆されて、われわれも舞踊譜をそのつどつくっているけれども、私の作品を私が譜につくっても、それは私がみるだけのものではない。

何故こんな話をするかというと、この問題から、舞踊が他の舞台芸術、たとえは演劇、あるいは映像の芸術である映画など、画然とわけられる、空間的本質をもっているということが指摘できるからに他ならない。

普通に舞踊といくと、もっぱら既成の音楽があつて、それにあわせて運動が行なわれる。音楽のリズムの視覚化といいた趣きがある。時には舞踊台本というものがあつて、劇的な進行を舞踊を使ってすることも多い。したがって、舞踊本来のイデオレの表現が、音楽的な、あるいは劇的な処理をなかだちにしておこなわれることになる。

私たちが考える舞踊の独立というものは、まず運動が、それから音楽、音、がある。だから、ここで王子が悲しむ、とか、何小節目で場面が変わる、といった区切り方ではなく、舞台空間がどのようにつくり出され、変化してゆくかに重点があるわけで、音楽家との打ち合わせの場合も、音楽の約束からいえば八小節のくり返し自然であるときでも、舞踊と

とは、なかなかないものではない。かろうかと思われる。くり返すようだが、そういうことが起るのは、舞踊家の側が、本当に舞踊的な本質を見究めていないからで、舞踊家さえ、空間性に目覚めておれば、照明家は本来照明空間をつくり出す専門家なのだから、すぐさま一致点が見出されるにちがいないのである。

舞踊家と照明家は、このように本来結びつくべき共通の舞台芸術上の要素を共有しておりながら、無用の演劇的美術的な立ちを求めて、縁を遠くしている。というのが私の考えの根本をなしている。

さて、このように、舞踊と照明がもっとも近い位置に、舞踊からいえばもっとも重要な協力者としてあることは、これからの舞踊家ももっと深く考えねばならないことである。

故人となった、高名な文化記者が、紹介記事の中で、振り付けと舞台監督の名前だけ扱ったので、私が、照明家の名前を出すように依頼したら、そのことを、私と、照明家のつながり、つまり私的なつながりの上での要求と受けとって、私の無知をあらわしてくれたいことがある。大新聞を背景にしているというエリート意識と、かけ出しの舞踊家、特に舞踊家一般の不勉強という認識の上でなされたやりとりだから、それ以上押し返しようもなかったが、私の立場からすれば、舞台監督、つまり演出家が重要視されるのは舞踊劇に限るのであり、そのことは、

日本での舞踊に対する認識が、ようやくバレエという所までしかきていないからだということになる。その点で、新しい舞踊が、バレエをこえていくことをしっかりとふまえた舞踊家が増えてこなければならぬと思う。

ついでに整理しておく。ヨーロッパの言葉では、ダンスとバレエには明確な区別があつて、劇芸術全体を演劇とよぶように、舞踊芸術をダンスという語であらわし、演劇の中に歌舞伎があるように、バレエがある。したがって、バレエというものは、現在からみて、直前の時代に完成した歴史的存在で、だからこそわれわれの美意識や舞踊作法を根強く規制するけれども、新劇の基礎が歌舞伎ではありえないように、モダンダンスの基礎は、技術的にも思想的にもバレエとは異質のものなのである。この点は、日本ではなお非常に誤解されているように思われる。用語としては、クラシックバレエに対してモダンバレエがあり、全く別に、近代の舞踊としてモダンダンスがあるのだが、日本のモダンダンスは大別して、石井漢系統、江口隆哉系統、そして私自身が属する邦正美系統というふうに分けられる。評価はさしひかえるが、モダンダンスと一口にいっても、形成途上の混乱があとに起っており、同日に談することはできない。

先日もある舞踊家から話があつて、お前の所もモダンダンスだから一寸応援しなさいと、あれはあつても、それ以上の発展性はない。少くとも八百から千人を単位とする小劇場での上演にたえなければ前途はないからだ。

もう一度話をもとにもどそう。舞踊はあくまでも舞台で演ぜられる。忍者ではないのだから、都合のよい所で踊りの局面を切りかえることはできない。上手にいた舞踊手が、次の瞬間に下手で踊り出すことはできない。この意味で、映画のもつ画面転換の奇蹟は舞台には許されていない。照明や装置が助けることのできるインデン返しの効果には限界がある。舞踊手の仕事は、明かりがついてから消える迄、持続的に運動をつみ重ね、空間をつくり出すことにある。したがって、舞踊の内部での転換は比較的ゆるやかなものである。それに比して、照明の転換は、照度と、カラーの働きのおかげで、観客の心理的な変化を速やかに規制する。いわば空間の染めかえである。よく考えられた衣裳は、照明の変化に応じて柔軟に色をかえ、全く別の性格に転ずる。そしてそのことが、舞台のスペクタクルな様式変化をささげおこして、時とすると、観客の意識を、舞踊の進行より以上に強くひきまわることが起りえているのではない。

照明からカラーを差引いて、折角の豊かな可能性と、色彩の楽しさを消してしまつてはならない。が、とすると、色彩におぼれはしないか。殊に、観客席を

とらえてきた。何をやるのか聞くと、女の子が花をつむ所をやるのだという。私の所の研究生は、あいにくそういう身振り舞踊をやらないので、お断りしたが、舞踊の理念、技法というものが、モダンという名で一律にしがたいことを端的に物語る例ではないだろうか。舞踊史からいうと、象徴的言語としてのバレエテクニックに対して、自然な感情の表出といつた段階を通じて、空間形成の芸術という考え方がラバンによつて確立され、そこから新しい舞踊芸術の確立が試みられていくわけで、舞踊と照明の関係は、あくまでもこの視点から考え出されなくてはならない。

少し寄り道が長くなったが、本題にもどう。照明が準備してくれる空間と舞踊がつくり出す空間の関係についても少し深入りしなくてはならない。照明の基本は横と上で、前からの明かりはあくまで光盤の補助につかわれるもので、よくよくの場合をのぞいて、ピンで追うなどというところは起らない。ホリゾン

暗闇の無性格さにとどめていゝ限り、色彩の乱れ狂う舞台との間に隔絶感をみちびき出すのは自明のことではないのか。オーケストラの音は、観客席全体を一つに、俳優のセリフが舞台にとじこもつてはならないだろう。同様に舞踊と照明が、舞台の上だけにどまると、別世界をつくりだしてしまひすぎると、観客はしばしばこのこされてしまつて、よそよそしいものになつて、劇場性の恢復といった主題からは遠いものになつてしまふ。私見では、こんな試みをしてみたい。色を余りかえると安定感がなくなるといつた常識をもう一歩進めて、むしろ色の比重を軽くし、明かるさの変化で仕事をしてみたら。観客席の集中性を犠牲にしない範囲でギヤラリーも半明かりにして。つまり舞台と観客が同じ明かりの世界に居ることを感じられるギリギリの所で、しかも舞台は舞台としての照度の変化と色の変化をつけてみたらどうかと思つてゐる。

この考えは、色彩の心理効果を否定するものではないし、また、自然光線を出そうとしてホリゾンテを説明した劇芸術の世界での時間や季節の変化に添うる照明の変化といった知識と、どのようにかわるものか、門外漢の私には十分わかつていない。幸いに好機会をえて試みたというにすぎない。染める照明へのささやかな疑問といえはえようか。

カラー・テレビジョンの原理と照明

わが国でのカラーテレビ放送は、昭和三十三年十二月、日本テレビとNHKが実験放送を開始したのが始まりです。この結果、カラー・テレビに対する一般の関心は急速に昂まり、政府も三十四年十二月には承るべく論議の焦点であった、わが国のカラー・テレビ標準方式をNTSC方式にふみ切ることになったのです。

続いて昭和三十五年九月十日には、西日本で始めて、他局に先駆けて、読売テレビが、本放送を開始しております。

先程述べたNTSC方式はアメリカの学者、技術者、メーカーの代表者によって制定されたもので、その一番大きな特徴は白黒受像機でもカラー信号を、白黒の映像として再現出来るし、カラー受像機の方は白黒テレビ放送を白黒の映像として再現出来るという点にあります。しかもこの方式の電波は、白黒式と同じ六メガの周波数なので、放送局がカラー放送した場合にも、白黒受像機を所有し

ている人々に少しも障害を与えることがありません。又CBS方式のような時分割で色の情報(インフォメーション)が伝送されると異なり、常に色に関する情報が伝送されているため、早く移動する物体を撮像しても、色が変化するようない配がありません。

白黒テレビでは物体色の明度だけが対照となり、無彩色のグレーで放送されますが、カラー・テレビではこの他に、有彩色を放送するわけです。

私たちが景色や物体を見る場合、その形と色からその内容を感じ判別出来るわけですが、その色の性質は色彩上、色の三属性によって分類されています。つまり色相・明度・彩度が、それらの三要素です。

色相とは、色の種類のことです。赤、橙、黄、緑、青、藍、紫、等のようにどのような色種であるかを示すわけで、明度および彩度が一定の色相環に赤から黄へ方向に十段階に分割され、H記号をもつ

て表示します。

明度とは、色の明るさの程度を表わす量のことです。無彩色を基準として、理想的な黒を0、理想的な白を10として、その間の明るさの感覚の差を等歩度に分割して表示しています。記号はVとします。

彩度とは、色の鮮やかさを示す量で、色相および明度が一定であっても、さへ方の度合によって区別される属性をいいます。記号をCで表わし、無彩色の0から、さへ方の度合の増加に従って等歩度に順次1, 2, 3, ……とします。

なお、等三属性による表示は一例として、

無彩色 N。 Nは無彩色の記号

8 は明度番号

有彩色 BR4/10 HV/C

のように書きます。

また一般に知られているように、太陽光のような白色光をプリズムで分解すると、七色の虹があらわれますが、光の波長と色相との関係は第1図のようになっ

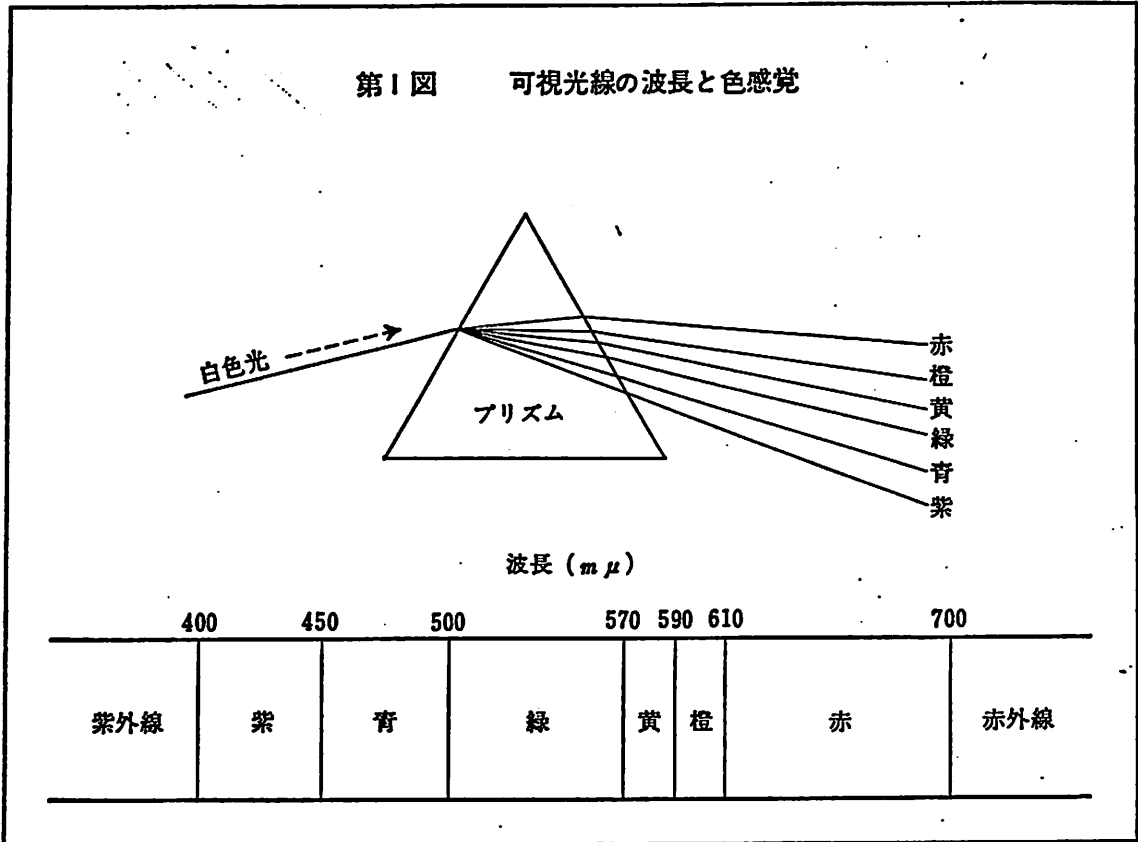
岡田猪之介

ています。

したがってカラー・テレビを実現するためには、これらの色の物理的、心理的、生理的な性質を、何とか合理的に電気信号の形に変換して伝えることが必要となります。ところが都合のよいことに、あらゆる任意の色は、赤・緑・青の三原色を適当に組み合わせることによってつくることが出来るので、第2図に示すような加色法の混色原理をカラー・テレビに利用しています。加色法とは色の光を合成する方法で、赤色光と緑色光と青色光を加え合わせると絵具のように黒色にならずに白色になり、赤と青ではマゼンタ、緑と青ではシアン、緑と赤を混ぜると黄色となります。カラー・テレビではこの加色法を利用して、赤と緑と青の三原色の光を用いて、あらゆる色彩をつくっています。

第3図に示すようにまず送るべき画面を、赤・緑・青のフィルターにかけて、三色を別々のカメラで撮影し、R(赤)・G(緑)・B(青)の三つの原色信号をつくり出します。次にこの3信号をそれぞれある割合に組合せ、白黒の画面を表わす信号(明度信号)と、画面に色をつける、つまり色相と彩度を表わすための二つの信号(色度信号)をつくり出し、これらをY信号・I信号・Q信号という。これらの信号を合せて同時に送ります。人間の目の性質として、画面中の細かな部分ではすべて色としての感じを失って

第1図 可視光線の波長と色感覚



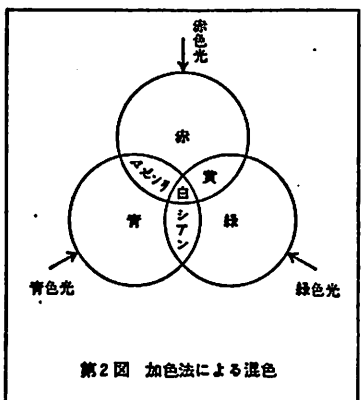
灰色と区別出来なくなり明暗だけしか感じなく、大きな部分だけ色として感じますが、これらの性質を利用して、6メガの周波数の中で、白黒の画面を表わす信号中にあるべき間隔のところを二つの色度信号を巧妙に挿入することによって解決しています。

第4図は白黒方式とカラー方式のスペクトル分布図ですが、これで明らかのように、明度信号は白黒式テレビと同じく四・五メガの周波数帯で伝送し、その周波数スペクトル分布の間隙に、色度信号を割込ませて巧妙に六メガの範囲内にカラー・テレビ信号を収めています。また明度を表わす信号は画面の明るさだけを示しますから、白黒式信号と全く同一のものであることがわかります。

こうして送られた電波は、カラー受像機に入ると再びときほぐされて、R・G・Bの原色信号となり、三色ブラウン管でカラー映像として再現されるのです。ブラウン管の発光面は白黒式と異なり、R・G・Bの各色に光る発光体の粒が規則正しく三つ三つ、一つのグループとなって配列されています。この発光面のすぐうしろにはシャドーマスクという金属製の薄板があって、これには三十万個ほどの小穴が規則正しくあけられており、この小穴を通り抜けて電子の流れが発光面に達するようになっています。この電子の流れの強さはR・G・Bの原色信号で

コントロールされているので、発光面では三原色混合の原理により一つの画点として色を表現することになり、ここに見えるカラー画面ができあがります。

前述でわかるようにカラーのNTSC方式では、人間の目の性質から細部まで忠実に色を再現することは無敵なので、この無敵を省いて電波の利用の効率を上げています。



第2図 加色法による混色

つまり
(1)比較的大きな面積のものを伝送する場合には、明度、色相、彩度の情報を送る。

(2)小さい色を送るには、ある特殊な色相と明度を送る。

(3)非常に小さい色を送るときは、明度のみを送る。

という方法をとっています(第4図参照) 従って色信号の周波数帯域を縮め、白黒信号に対する影響を少なくしているの

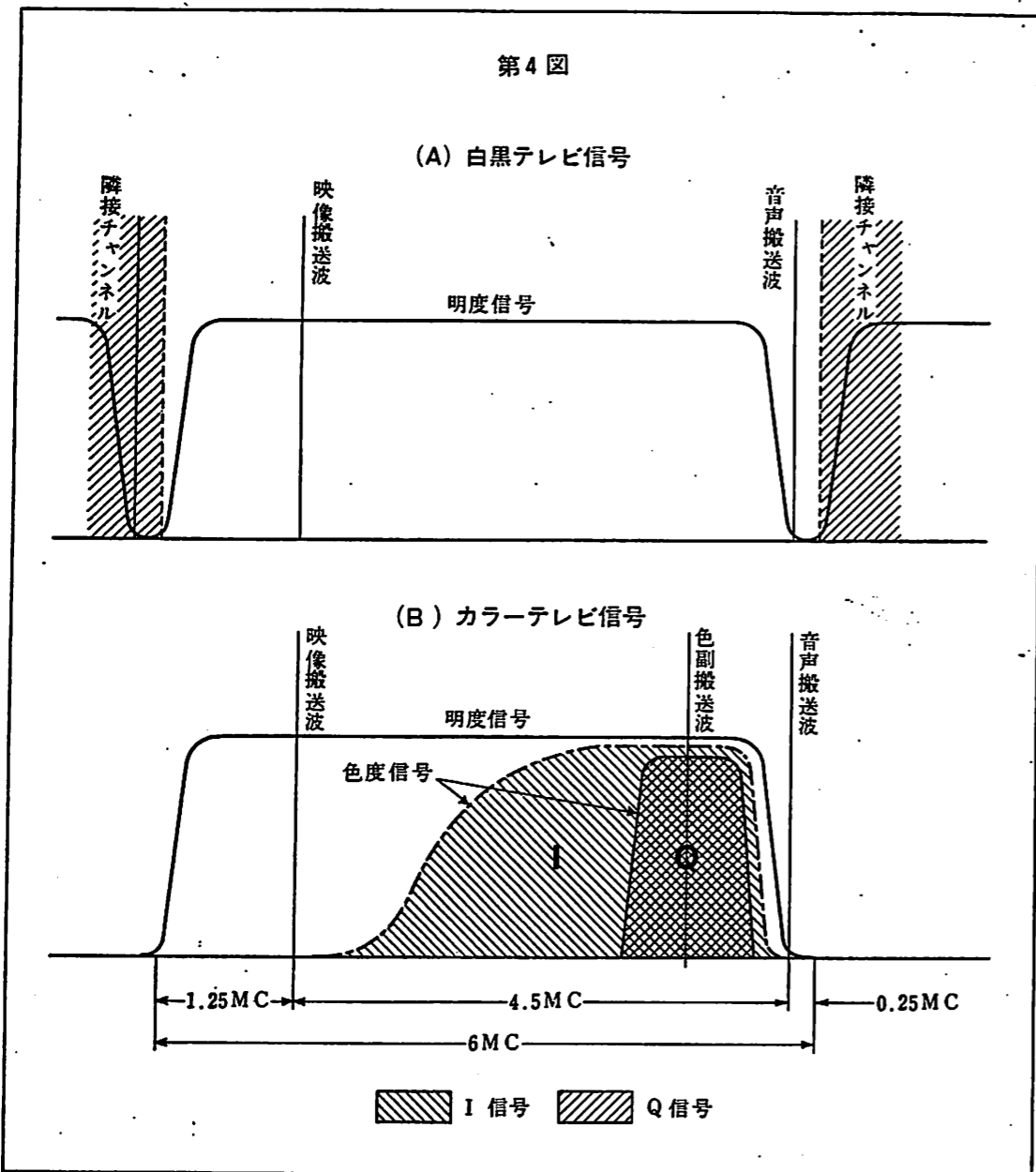
で、色再現に少し欠点が出て来ます。それは

- (1) 小さな赤色の被写体はやや強度が失われ、少しぼける。
- (2) 緑または、黄色の被写体は尖鋭であるが、少し彩度は損なわれる。
- (3) 小さな青色の被写体は彩度は良いが、強度及び尖鋭さは低下する。
- (4) これらの影響は明るい色では少ない。などでありませぬ。

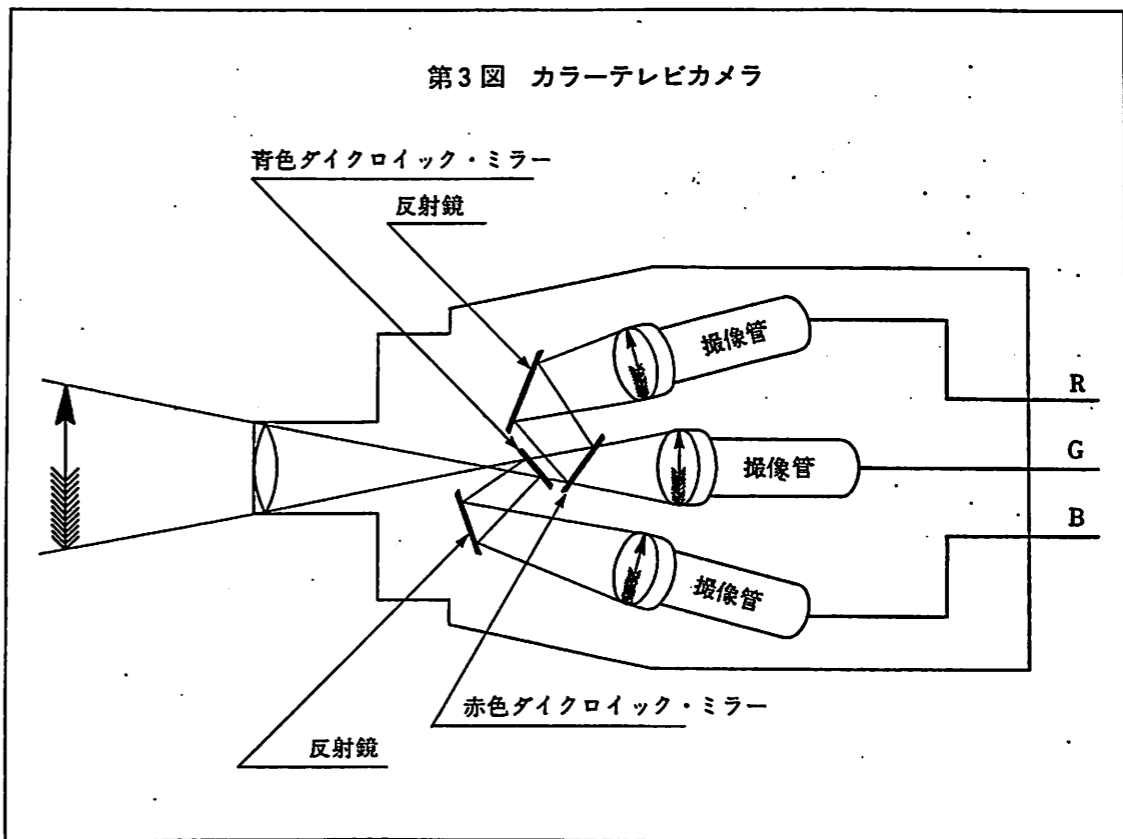
又同じ色でも照明の光によって違って見えます。例えば太陽の光で見た色と、白熱電球の光で見た色、蛍光灯の光で見た色では、夫々異なっています。そこでカラー・テレビの場合の標準としては、CIE (国際照明委員会) の標準光源C (Aは二八五〇Kの白熱電球、Bは太陽光、Cは晴天の日の光で太陽光と青空からの光の和) を標準に定めています。スタジオに於いてもC光源で照明することが望ましいが、六〇〇〇度近い電球を作ることとは寿命の点から不可能で、三二〇〇Kの色温度のものをカラー番組の標準スタジオ照明光として、白黒テレビで使用している調光器は色温度が変化するので使用しない様にします。尚NHKのカラーでは、寿命の関係から三〇五〇Kの色温度光を標準としています。

スタジオカメラは三二〇〇Kの色温度の光で照明された色を正しく送れる様調整されていますので、セットの配色、衣装などはこの光に近いもので見て決める

第4図



第3図 カラーテレビカメラ



事が望ましいわけでは

以上の原理からみて、番組制作上の色再現には、いろいろの長所欠点があるの、それ等をよく考慮して、被写体の配色や照明を考えないと奇麗な絵は出来ません。

従来のカラー放送を受像した画質は、解像度などの点で問題があり、特にカラー放送を白黒受像機で受像した場合、白黒カメラの画質にくらべて、解像度のほか、SN比、あるいは階調の点で稍劣る傾向が見られます。

これらの欠点を除去するため、輝度信号と色信号を分離した、輝度分離方式のカメラが最近実用化の段階にあります。NHKの2撮像管方式、NTVの4撮像管方式がそれで、それらの開発とあわせて、カメラの感度も次第に上昇しつつあります。

カラー・テレビの場合、白黒に較べて感度がさらに悪くなりますので、理論上の計算から割り出すと、照度は白黒の場合の約五倍必要とされ、輝度分離カメラでも約三倍は保たないと良質の映像は得られません。

したがってその理想照度は三〇〇〇ルクス/六〇〇〇ルクスは必要です。又照明設計上特に注意を要する点を列記しますと

① 光源の色温度を三〇〇〇K~三二〇〇Kの範囲内で統一すること

② 照明ムラを避けるため、できるだけ遠方から均一に配光分布をする

③ カラーの場合特にカメラと同一方向からの照明補助が必要である

④ 白黒テレビ以上にコントラスト比を低くおさえること。明度一〇%~六〇%の範囲の色を用いるのが望ましい。

⑤ 色のコントラストはあっても、明度差がないと、白黒受像機で全く同一に見えるから、色の三属性による色相・明度・彩度の観点から判断すること

⑥ 顔の肌色を色再現の基準としているが、背景や小道具・衣裳の色が反射して、きたなく見える事があるから照明照射角等を考慮する必要がある等これらの条件を基本に照明を設計しないと、被写体が動いた時に色が変わって、見苦しい絵になります。カラー・テレビで照明が重要視されるのも、一つにその設計如何によって、大きく画質の良し悪しを左右するからです。

従ってカラー・テレビの照明設計の心構えとしては、テレビ全般にいえることですが、先づそのカメラなり伝送系そのものの性能を熟知して、技術的条件を満たして後、始めて演出上の欲求を満足させ合致するよう心懸けることです。

(販売テレビ放送KKスタジオ部長)

特集・SCR調光

脚光をあひた

I 半導体調光器

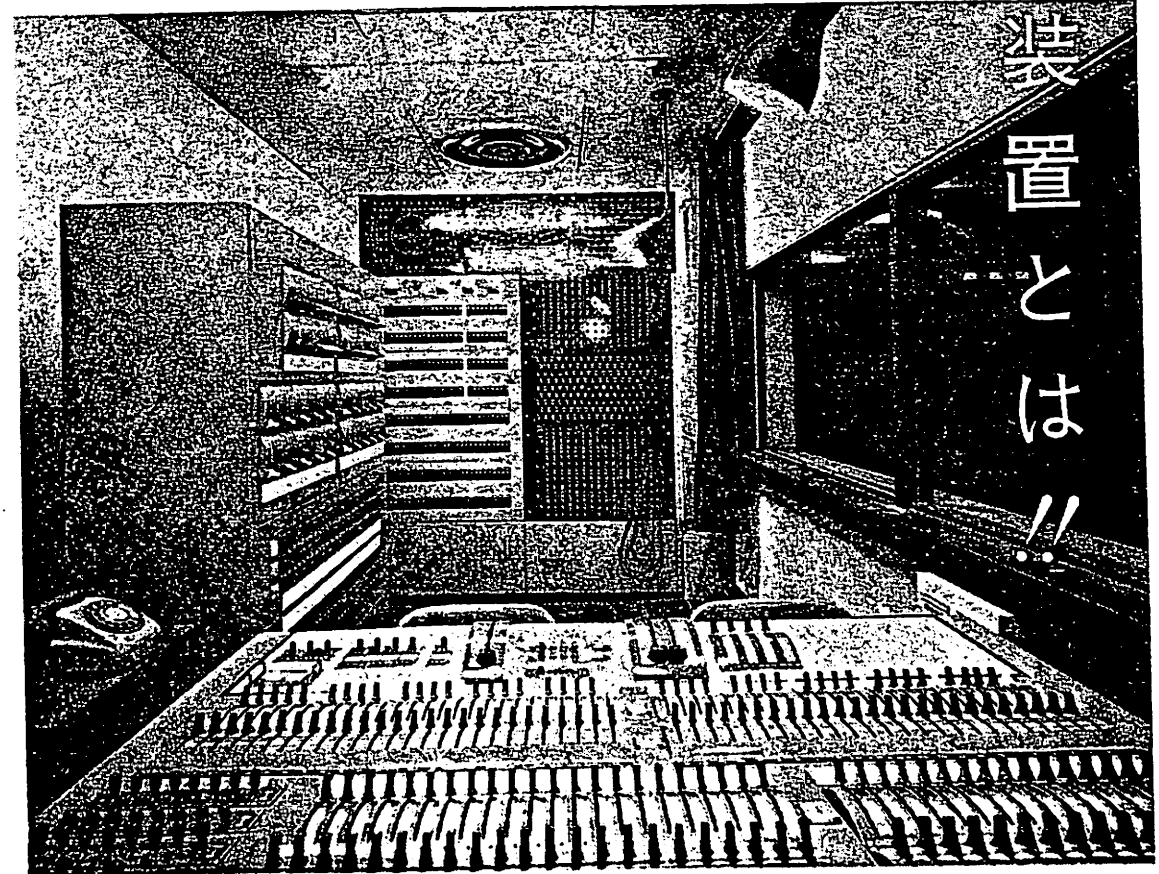
宮本 修

一九五八年SCR (Silicon Controlled Rectifier) と呼ばれるシリコン制御整流素子が米国のジェネラルエレクトリック社で開発され、まもなく我が国でも製作がはじめられるようになり、調光装置、直流電源等に革命を起す程、急速に普及した。SCRの動作原理を説明するには半導体物理から始めなくては出来ない。紙面の都合もあり難解な点もあるから専門的な記事を避け、我々照明家が使用する立場に於て知っておかなければならない半導体調光器の構造を述べ

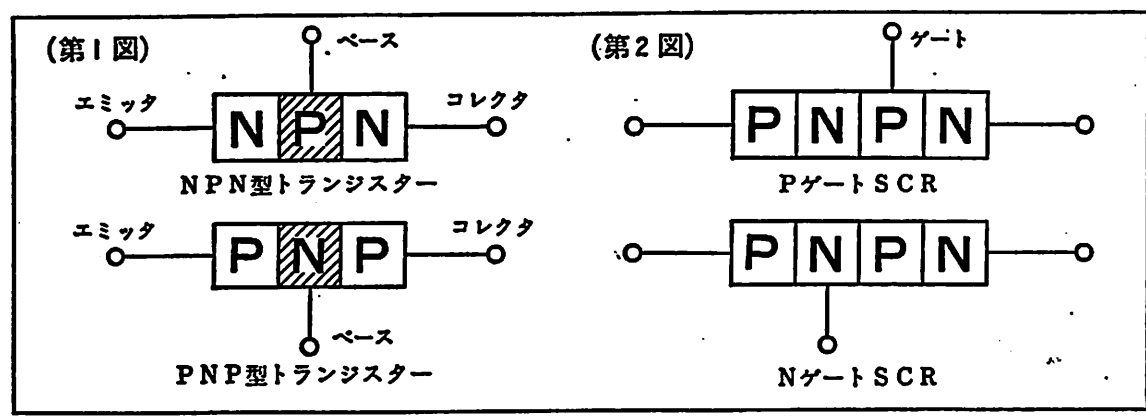
半導体調光器の原理

半導体素子にP形とN形があり、それぞれ性質の違うP形とN形を接合すると整流作用を生じ、第1図のように三層にすると、トランジスタ作用が生ずる、SCRは第2図の通り四層となっており制御電極を付ける位置によってPゲートSCR又はNゲートSCRと呼んでいる。いま仮りに第3図にゲートオープンした状態で通電すると、 J_2 の接合部で電流は阻止される(わずかの漏れ電流が流れるが)したがって電球負荷は点灯しない。今度はゲートと陰極間に外部から微小のパルスを加えるとSCRは通電を開始する。しかし一旦通電状態となればパルスを停止しても半サイクルの間は通電

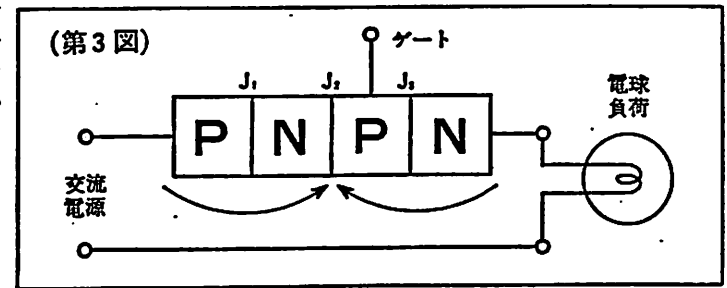
装置とは!!



大阪府厚生会館・文化ホール調光室



状態を保つ。SCRは一方方向性で順方向の半サイクルには通電するが、逆方向の半サイクルは阻止される。故に両サイクルを通電させ、調光特性を円滑にするため、第4図のようにSCRを逆並列に接続し各SCRのゲートにパルスを加える。と各半サイクルごとにSCRと動作しゲートパルスの位相角を0より一八〇度に変えることにより、電流を100%より0%に変化させる。SCRの実際の構造は第5図の通りである。ユニジャクシヨントランジスタ(UJT)を用いたSCR調光器回路の一例を第6図に示した。太線は主回路である、ゲートパルス発生回路、調光操作回路の外に各種保護回路がいくつかついてい



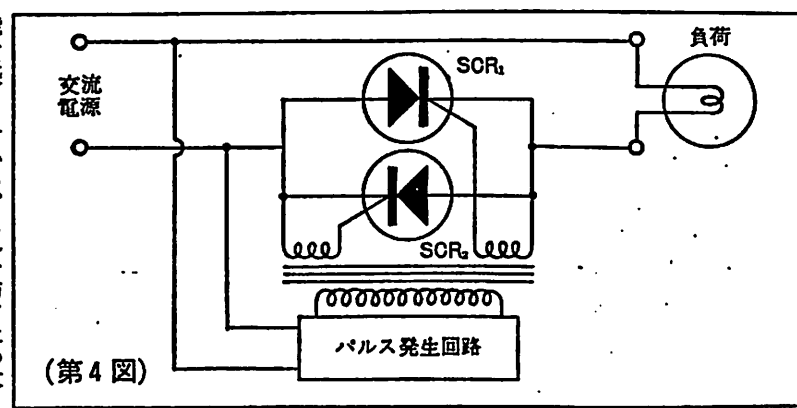
る。これらの保護回路はメーカーが指定する定格電圧以上の電圧をかけた時、又定格電流以上の負荷をかけた時SCRはその機能を失うか破壊する。故に補償回路が必要となる。では各種回路を第6図で列記説明する。

移相回路(パルス発生回路)

交流電源より T_1 でパルス発生に必要な電圧を昇圧し、整流回路で全波整流となる。 R_1 と Z_D (ゼナーダイオード)で台形状に電圧を整形することにより定電圧を保持し設定された時定数を一定に保ち、ゲートパルスの発生位相がずれるのを少なくしている。コンデンサー C_1 が充電されUJTのピークポイントの電圧値に達すると T_1 の一次巻線に放電し、 T_1 の二次巻線にゲートパルス電圧が発生する。パルス波形は急峻な立上りを有するものでパルス幅6~10 μ S、波高値5~10Vを必要とする。D(ダイオード)はゲート電圧の逆方向分を吸収するためのもので、抵抗 R の値を変えればUJTのピークポイント値が変わるからゲート倍数の位相は簡単に変え得るので、この抵抗値は重要である。

ソフトスタート回路

電球負荷は点灯しない時の冷間抵抗値と点灯中の抵抗値では一桁以上も違うため、冷状態でスイッチインした時、10倍程度のランシユ電流が流れ、SCRの性

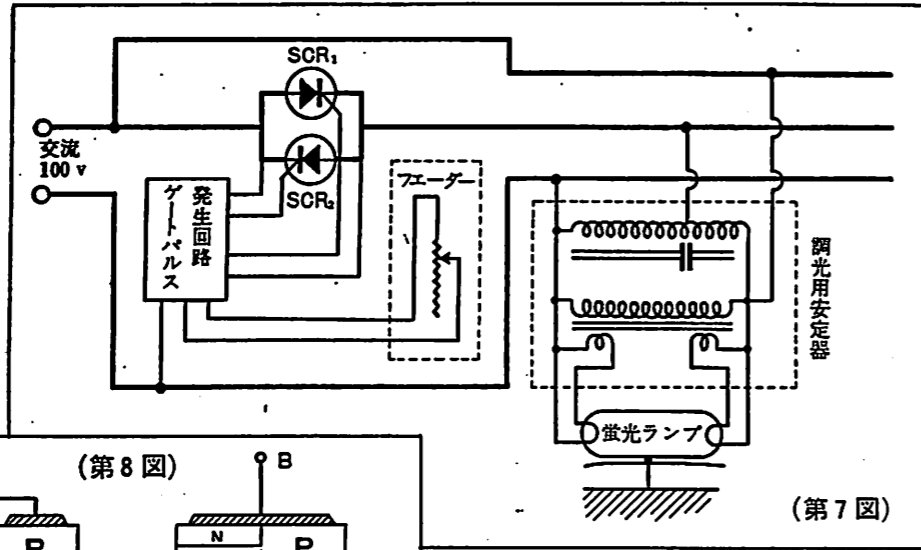


能を低下させ、これを防ぐため大きいピーク電流に対しコンデンサーにて導通角を徐々に広げ安全電流に制御しながら、フェーダーにてあらかじめセットされた電流値となし、SCRに過大電流が流れないようにする機構である。

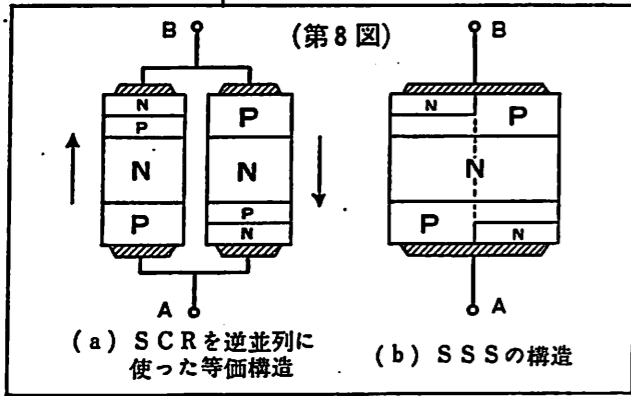
過電流保護回路

照明器具をセッティングの際、誤って調光器の規格を超える過負荷となった場

発光灯負荷は誘導性であるため、SCRに加えるゲートパルスを十分な時間的幅をもたせる必要がある、負荷にラッシュ電流がないから保護回路は必要ない。



(第7図)

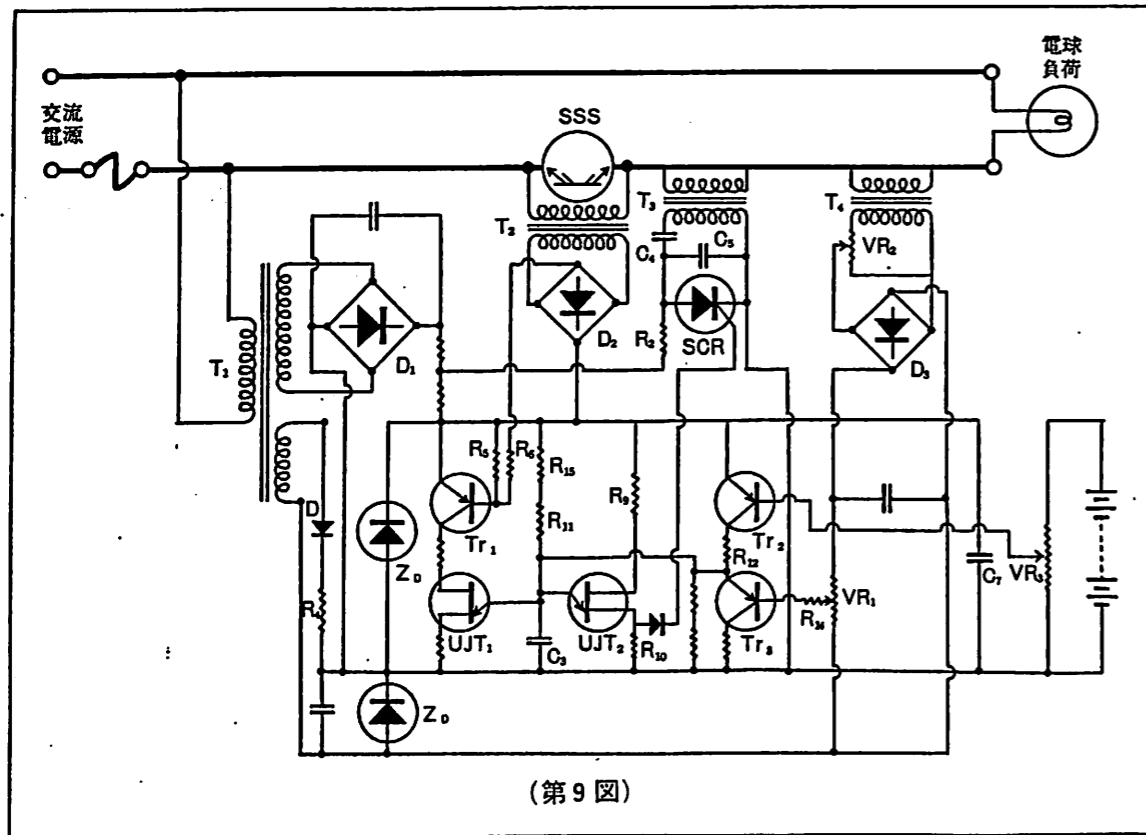


(第8図)

(a) SCRを逆並列に
使った等価構造

(b) SSSの構造

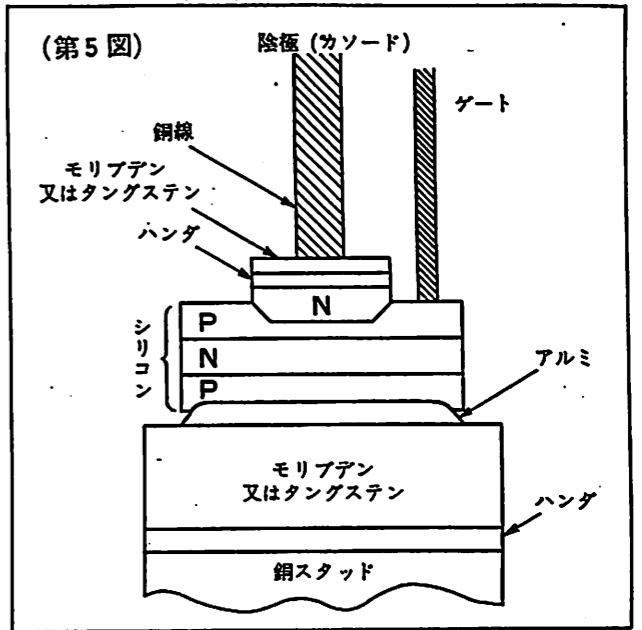
SCRが一方方向性のダイオードに対し、SSS (Silicon Symmetrical Switch) は二方向性を有するダイオードで、主として調光装置用として開発されたもので、一般には種々な商品名にて発売されている。SSSの構造はSCRを逆並列に接続した複合体と考えてよく、第8図(b)で交流電源をかけた場合、半サイクルの順方向では、左側のSCRをA/Bの方向



(第9図)

調光操作回路(フェーダー)
負荷電球を主調光する可変抵抗体で非常に軽く摺動することが出来る。特に携帯用として本体に取付け使用する場合もあるが、通常フェーダーは操作卓に集められ、本体であるユニットをリモートコントロールして調光操作を容易にしている。

次に発光灯用SCR調光器であるが、この発光灯は電球用SCR調光器では調光出来ないから、第7図のような回路をもつ調光器が必要となる。SCR調光用発光灯安定器は一般の安定器と原理的にはとくに変わったところはなく、発光ランプ、フィラメント、常時加熱用変圧器とリーケージ、トランスよりなっている。

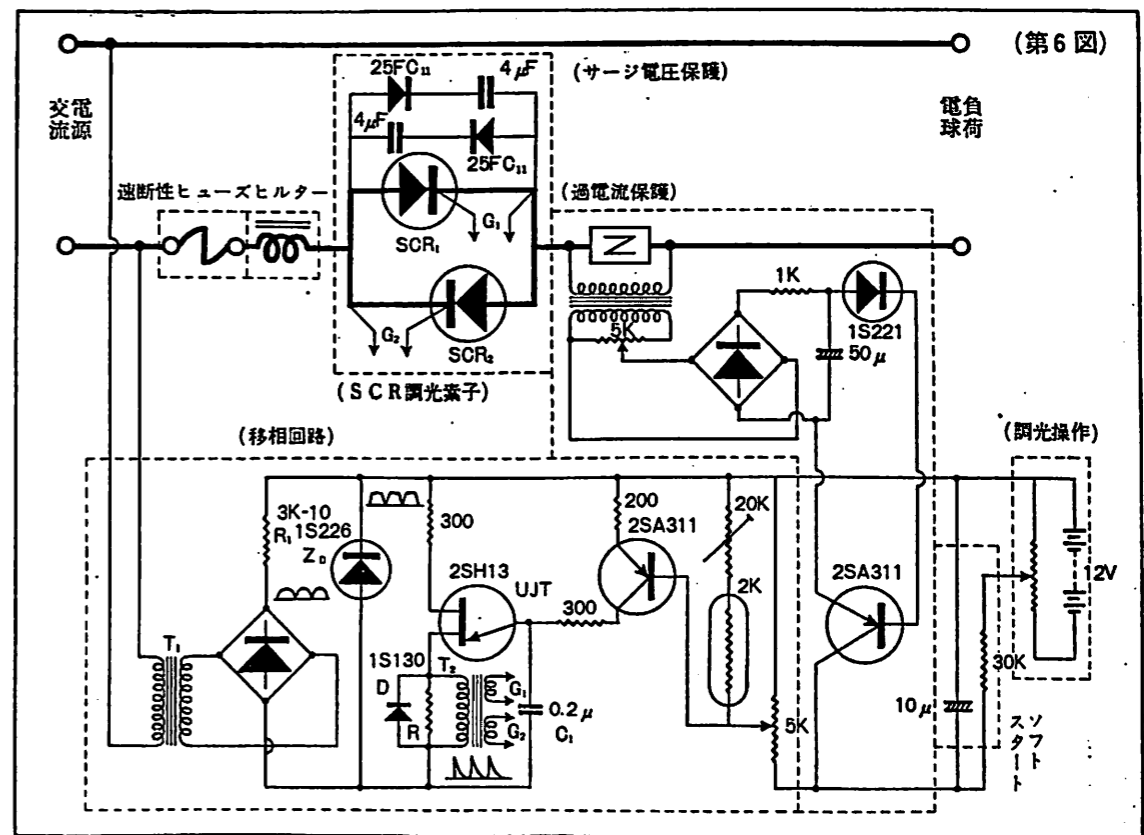


(第5図)

合に、オートトランス式ではヒューズで焼損を防いだが、SCR調光器ではT₁に過電流を検出し、負荷電流を安全定格内に自動制御するように設けた回路である。又、何かの事故でショートした場合に速断性ヒューズが働く。

次に発光灯用SCR調光器であるが、この発光灯は電球用SCR調光器では調光出来ないから、第7図のような回路をもつ調光器が必要となる。SCR調光用発光灯安定器は一般の安定器と原理的にはとくに変わったところはなく、発光ランプ、フィラメント、常時加熱用変圧器とリーケージ、トランスよりなっている。

る。SCR調光器のもっとも大きな特長の一つである多段プリセット方式が、このフェーダー部をどこでも設置出来るからで、ユニット一個に対しフェーダーを数段設けることにより、数場面先の情景をあらかじめセットすることが出来るから、キツカケがきて、あわてて配電盤操作をする必要がなくて、逆動選択ボタン



(第6図)

に通り、逆方向では右側のSCRをB₁Aのように導通することから分る通り、第8図⑥で順方向に電圧がかかった場合、左半分を通り逆方向では右半分を通る。

SSSもパルスを加えて回路がオンするのはSCRと同じだが、SSSでは入力電圧に直列にパルスを加える。第9図はSSS調光回路で主電流はSSS一個で制御される。

R₁R₂とR₃を通じC₁が充電されU₁T₁のピークポイントに達するとT₁の一次巻線に放電するパルスは二次巻線に発生して入力電圧に重畳するとSSSは通電を開始する。T₁で過電流を検出してT₂のベース電位を変化させ安全定格内に自動制御せしめる。以上で半導体調光器について非常に簡略して述べたから不明の点は能く少くとも参考になれば幸いである。

(日本ドリーム観光KK)

II

SCR調光の操作手法

瀬川 泰 男

1 まえがき

戦後半導体工業の発達はめざましく、昭和三十三年(一九五八年)に大電力をコントロールする新しい半導体SCRが発明されるやその応用分野は照明の世界にも波及し、今やオートトランス式調光は過去の遺物になろうとしております。

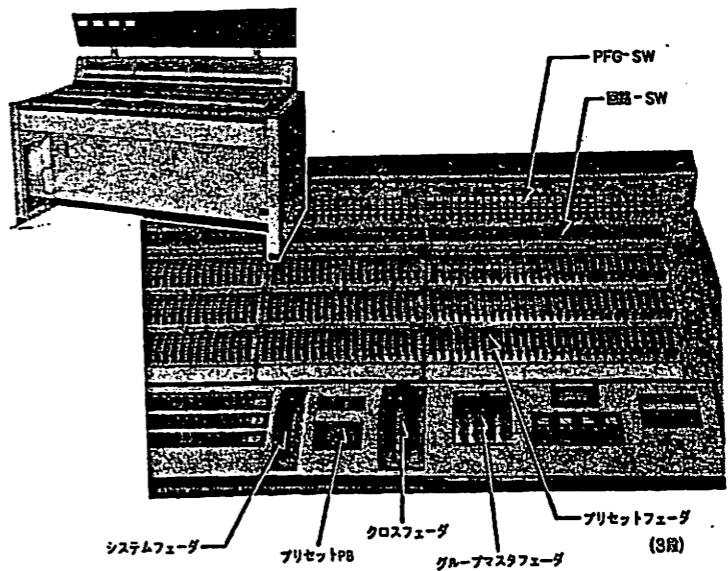
照明装置における技術革新の果たす役割は、舞台照明の設計、操作における芸術性をより高度のものに昇華するための原動力として極めて大きいものがあり、

SCR調光装置がその開発当初、従来のオートトランス方式に較べて必ずしも一〇〇%満足すべきものでなかったにもかかわらず、ここ二三年の間に急速に普及してきていることは、SCR調光装置が従来の機械的操作と全く異なった電子制御であり、舞台照明の設計・操作上今まで全く満たし得なかつた種々な夢を実現し得る要素を内在している革新的なものであることを如実に立証しているものと思えます。

SCR調光装置については、既に種々な雑誌などに紹介発表されており、今更事新しく説明することは何もありませんが、ここでは特に舞台照明の操作ということに焦点を絞って、今まで実現できなかった新しい操作方法と、今後解決をはかるべき操作上の問題点について解説したいと思えます。(操作上の用語については図・1を参照下さい。)

2 多場面のあかりの仕込み

一つの出し物の中で、場面や情景の移り変りの頻度は局部的なあかりの変化も含めて多量、きめの細かい情感のこもった或はスピード感に富んだダイナミックな照明効果が得られますが、あかりを次々と仕込んでゆく時間との見合で、おのずから限度があります。従来のオートトランス方式ではあらかじめ場面のあかりを仕込むのは2段で、したがって第一のあかりから次のあかりに移ったあと更に続いてあ



図・1

も必要な段数設備にすることができません。段数の多いものとして日生劇場を例にとりますと、一五〇個のデイマに対して、あかりを設定するための抵抗ボリューム(プリセットフェーダとよぶ)一五

〇個が九段計一、三五〇個装備されており、あかりの仕込み幅により常に八段先のおかりの仕込みまであらかじめ仕込んでおくことができます。すなわちSCR方式では、場面の進行につれて、既に終わった段(例えば一段目の仕込み段)に対して他の段が動作中でもすぐに第一〇段目のあかりを仕込むことができ、このようにして、操作の済んだ段に次々と常に八場面先の相続く場面のあかりを仕込んでゆけるので、かなり変化の早いミニシカルものでも充分な照明効果の追隨が可能になりました。

3 場面のカットイン、カットアウト、カットチェンジ

場面のあかりを急転させる場合、マグネットスイッチを操作して負荷の入り切りを行なうのが普通ですが、SCR方式では、デインマに与える微弱な信号の入り切りでデインマのオン・オフを行なうことができるので、マグネットスイッチを設備する必要がなく、セットは小型で済み、操作も押ボタンによる微弱信号の入り切りですむので簡単になりました。

SCR方式の開発当初は、電球をカットインする場合、ランシユカレントが流れるのでSCRの保護回路を種々と付加したため、デインマにオン信号を与えてカットインしたときの場面のあかりは、フーツと多少おちて点灯しましたが、開発一年経ずして電流耐量の充分大きい

SCRに変更することでほとんどの保護回路を除去することができましたので、カットイン・カットアウトの状態は、マグネットスイッチ操作の場合とほとんど遜色のない程度になりました。

また、或る情景から次の情景へカットチェンジする場合、オートトランス方式では、マスターハンドルを操作して行なうので、カットチェンジとはいってもマスターハンドルの回転に要する時間だけは場面転換にかかりましたが、SCR方式では、微弱な操作信号を或るプリセット段(仕込み段)から次のプリセット段へボタンで切り替えてやればよいので操作は楽で、しかもボタンの切替え時間は瞬間的で無視できるので、完全に近いカットチェンジを行なうことができます。

4 場面のフェードイン・フェードアウト・クロスフェード

場面のフェードイン・フェードアウト・クロスフェードなどの緩転操作については、SCR方式に対する今後の課題が含まれています。まず場面のフェードイン・フェードアウトですが、SCR方式ではこの操作はマスターフェーダ(グループマスターフェーダ・クロスフェーダ・システムフェーダ：図・1参照)で行なわれ、このとき各部のあかりをきめていくプリセットフェーダ群はすべて電気的にマスターフェーダに接続されているので、マスターフェーダの動きに追隨して各部のあ

りの変化は或る一定の関係曲線の上で変化することになります。即ち場面全体のあかりが一斉に変化し始め、場面の局部毎に変化のし始める時点を変えることができます。勿論、マスターフェーダを動かしながら或るあかりのプリセットフェーダを動かすこともできますが、プリセットフェーダの操作電圧は電氣的にマスターフェーダの動きに左右されますので、このような操作を行なうにはかなりの熟練を要します。この

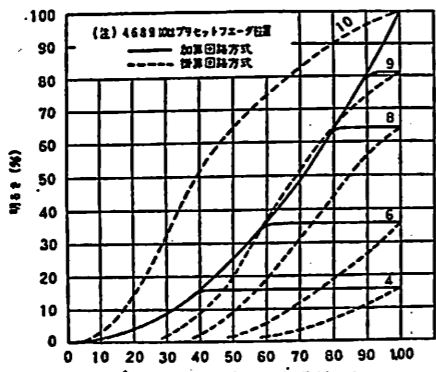


図 2 調光特性

S、一定の間隔をもった揃ったクロスフェードは期待できません。

5 一括操作のときの調光カーブ SCR方式で種々なあかりに設定されている各部のあかりを一括してフェードイン、或はフェードアウトする場合、明るい

し始める時点をお互かりによって簡単に、任意に選ぶことができます。SCR方式でもこのような操作を実現することは決して難かしいことではありませんので、近い将来この問題は解決される問題であります。

あかりはマスターフェーダの動きの全域にわたって大体一様に変化しますが、暗いあかりは、マスターフェーダのほんの僅かの動きで変化を完了します。すなわち暗いあかりはフェードインするとき、マスターフェーダを動かした最初の所ではあかりが出ないで、マスターフェーダの動きの終りに近い部分でやがらつき始めて所定の明るさに達し、逆にフェードアウトする

かりの変化を行ないたいときは、その間にも必要にやがらつき始めるので、その間にはなりません。しかしSCR方式では、機械的な操作のオートトランス方式と違って電子回路で操作されるので、場面のあかりの仕込み段数を幾段で

ときは、マスターフェーダを動かす始めの所で忽ちあかりが消えてしまします。このような調光特性を示す回路を我々は掛算回路といっていますが、最近図・2の実線で示したような従来のオートトランス方式で類似の調光特性をもった操作回路を開発しました。この回路方式によれば、マスターフェーダの動きに対して暗いあかりも明るくあかりも共に一斉につき始め、また消す場合も、暗いあかりも明るくあかりも歩調を一にして消えてゆきます。この新しい操作回路を我々は従来の掛算回路に対して加算回路とよんでおり、グループマスターフェーダおよびシステムフェーダにより一括操作する場合に採用しています。しかし、だし物によっては局部的なあかりを特に強調したい場合があり、このような場合には掛算回路のクロスフェーダにより一括操作(クロスフェード)する他方の仕込み段をオフ状態にしてクロスフェードすれば、フェードアウトの操作になり、この逆の操作でオフ状態からある仕込みにクロスフェードすれば、フェードインの操作になります。して実現することが出来ます。このようにSCR方式では現在二種類の異なる照明効果を得ることが出来るようになりました。

6 グルーピングの方法・舞台セット仕込みのときの作業灯点灯方法
 ディンマにかける負荷のグルーピングを行なうのに、従来はパッチ盤で選択

ッテしていましたが、SCR方式では一括変化するグルーブをディンマの操作回路の所で電気的にまとめていくつかのグルーブマスターフェーダに選択接続する(図・1 PFG-SWによる)ことが極めて簡単にできるので、種々複雑なグルーピングも容易に仕込むことができるようになりました。

また舞台セットの仕込み替えのとき、幕間の作業のためあかりが必要になります。あらかじめ組込んである場面のあかりの仕込み状態を全く崩すことなく、操作回路に設けた回路-SW(図・1参照)の操作で、ディンマを調光状態から切り離して100%点灯に切替えることが簡単にできますので、舞台の仕込操作が非常に便利になりました。

7 操作場所の選定および操作員の運搬
 照明操作を行う照明室をどこに設けたらよいかということ、舞台の規模や操作、仕込み員の人数にもよる、舞台の袖に近くおいた方が便利なのもあり、また舞台の正面に設備した方が満足した操作を行なうことができる場合もあり一談には言えませんが、従来のオートトランス方式の場合は、照明室を舞台の正面に設備した方がよいとわかっていた時でもディンマ操作のためのワイヤを電源室から照明室まで引張りまわすことができないため、止むを得ず電源室に近い、舞台の袖におかざるをえなかったものであります。SCR方式では、ディンマは微弱な

電気信号で操作されるので、例えば五〇本の市内電話線ケーブル一本で五〇本のディンマを操作することが出来るので、操作場所の制約は全くなくなりました。また、SCR方式では操作の大部分が電子制御で行なわれ、常時あらかじめ数段先の場面のあかりを仕込んでおくことができ、また操作としては照明操作卓上の押ボタン・スイッチ類・およびフェードトランス方式におけるような、複数人で力をつかた忙しさをなくし、一人でも余裕をもって十二分の操作を行なうことができるようになりました。

8 半導体素子の進歩
 最近SCRに代る半導体として、SSS(シリコン・シンメトリカル・スイッチ)とかTRIAIC(トリアックまたはトライアック)とよばれる新しい半導体が発見されるようになってきました。このSSSは一九五八年に米国でSCRと同時に開発されたものであります。SCRに較べて製造が難しかったが、SCRに較べてそれを操作する方法が誤動作の危険があったことなどの理由で、SCRの普及に反して、ごく最近まで日の目をみなかったものであります。またTRIAICは一昨年に米国で新しく開発されたもので、SSSでの取扱にくい点をすべて解決した新しい半導体で、従来のSCRの操作回路がそのまま使用でき、既設のSCRセットに対する互換性

も考えた半導体素子であります。(日本でも東芝が去る一月十四日にTRIAICの開発・生産開始を新聞発表しました。)これらの半導体は、SCRを二個使うのに対していすれも一個ですむという簡便さをもっています。特に性能向上や新操作手法が期待できるという要素は何もありませんので、半導体調光装置における操作系統や操作回路・手法の重要性からみますと、装置に使用される半導体は単に一個の部品の意味しかもってありません。

尚これらの半導体はいすれも親指の大きさで、このものが一個一個になっても装置の大きさが小さくなることは全く期待できず、また価格の点でも、この半導体素子の装置全体に占める価格構成比および市場の普及度(SCRは直流制御にも交流制御にも使用できるので、その市場性は格段に大きい)、TRIAICやSSSは交流制御にしか使用できないので市場性はSCRに較べて小さい。)から考えて大きな Cost Down は期待できません。しかし半導体進歩開発の推進力の一環として新半導体素子を使用し、やがて市場の要請によっては、是等の新半導体も半導体調光装置の一部品として市場に数多く目見えすることと思えます。

(東京芝浦電気KK照明技術部)

SCR SCR SCR.....?

木本敏夫

現在国内にめざましく発展しつつあるSCR調光装置が、本当に我々照明家にとって舞台照明を創造する一つの近代的な装置として十分満足出来るものだろうか。また操作する時にどんな事を注意すればいいのか、我々はあらためて照明家の目から見たSCRというものを、実際に見てゆきたいと思います。

SCR調光は、今迄のオートトランス式の電圧制御方式と異り、電流の流れる区間、すなわち導通区間を半導体で制御するものです。この様にSCR調光装置は根本的に異ったもので、おのずから操作面に於いても、オートトランス方式の場合とは区別して考えなくてはならないと思えます。私共のホールが設立されて以来一般の方々を始めとして、特に照明関係者が来館され実際に見、また接して「SCRは特性がどうも……」と言われ

る事が非常に多いのです。

この事は私共が過去一年あまり経験して、色々考えましたが、結局操作する者の理解が深ければ深いほど、SCRの威力を発揮できるという簡単な結果となりました。しかしこの事が本当はなかなかむづかしい事も知りました。それには先ず今迄のオートトランス式概念を捨てて初心者の様な気持ちで全てを経験する事です。

それではここで、私共大阪府厚生会館文化ホールのSCR調光装置を参考に、構成とその具体的を使い方等について、進めて行きたいと思います。先ず調光装置の構成として

- 一、操作卓
- 二、プリセット盤
- 三、パッチング盤
- 四、スイッチ盤

- 五、パイロット盤
- 六、主幹盤
- 七、ユニットラック

一、操作卓

特にSCRの場合操作卓は、舞台全体の見える場所が望ましい様です。なぜならSCR調光装置は手動部分が多いからです。舞台の配光を見ながら一人で操作する。この事も一つ特徴です。この操作卓には次の様なものが配置されております。

- 1、システムフェーダー
 - 2、クロスフェーダー
 - 3、グルーブフェーダー
 - 4、シングルフェーダー
 - 5、PFGスイッチ
 - 6、直操作ボタン
 - 7、その他、操作ボタン、マグノカラ
- 操作スイッチ、ミラーボールリモコンスイッチ、プリセット選択ボタン、等

私共は別名マスターともメインフェーダーとも呼んでおりますが、このフェーダーは操作卓のメインであり調光しようとするものは、全てこのフェーダーを通して操作されます。即ち、操作卓で操作する場合は必ずこのフェーダーの目盛を100にして操作します。もちろんこのフェーダーで全てF・I、F・Oも可能な事になります。

2、クロスフェーダー

各シングルフェーダーにある、PFGスイッチがPの位置にある時、プリセット選択ボタンで二二三の各々のシーンを自由に選択し、AB二つのフェーダーでクロス変化を操作するフェーダーです。またこのABいずれかを100の目盛にして選択ボタンを操作すれば、S・I、S・Oが出来ます。

以上この二つのフェーダーはいすれも、大型でカマボコ型のフェーダーで操作のしやすい様に設計されております。しかしながらこの二つのフェーダーは、目盛30位から90と、有効範囲のせまい事です。結局立上りカーブが急なために操作する時は十分注意が必要です。もっとも、システムフェーダーはほとんど操作する事はありませんが、クロスフェーダーを操作する場合、私共のフェーダーでは、点灯しようとするフェーダーは目盛の二、三十からスタートする事にしております。この事はオートトランスの場合にもありますが、F・IとF・Oを同時にスタートした場合、見た目に五十位の所で舞台全体が暗くなる様な感じを受けますので、SCRの操作方法としてスタートを少し早い目にする事です。今一つ問題になる事は一ケの単位のW数の小さいものの場合、例えば、ローアホリゾントのみのシニエットから、舞台全体の明るい場面にクロス変化した場合、前述の方法で操作しますとローアが急に暗くなる事がある

ります。この様子を後にF・Iされる舞台全体の明りを先に操作し、次に消えるものを、多少時間をかけて操作する事です。

3、グループフェーダー

このフェーダーは四ヶあり、PFGスイッチがGの位置、即ち、G(グループ)1234のいずれかに位置した時に、そのシングルフェーダーは何本でも一括して定められたフェーダーで操作する事が出来ます。例えば、前明り、数の多いキックカケサス、ホリゾントのみ等と色々操作によって自由に四つのグループに選択し操作出来る仲間面白いフェーダーです。

4、シングルフェーダー

各調光ユニットに一つづつ配置されたPFGスイッチがF、つまりフリーの位置にある時、システムフェーダーを除いて全てのフェーダーから切離されて、単独に操作出来るフェーダーです。当ホールには、三シーン迄ありますので、一ヶのユニットに三ヶのシングルフェーダーがあります。

このシングルフェーダーで注意することは、一個のユニットにかかる小さい容量の時の操作で、例えばW数の小さいものですとスロー変化の場合、多少のアフリが感じられます。特にローアの単独変化の場合によく目立つ様です。この様な時には、グループフェーダーで操作する様にしております。又W数の大きい二K

W位になりますと、電球のフィラメントが発光する前に操作を完了しますと急に灯くことになりまして、あらかじめ光の出ない所で用意しておくことです。

5、PFGスイッチ

このスイッチは各シングルフェーダー一個に対し一個づつ配置されておりますが、今迄のことでお分りの様に各々のパートに切替えるスイッチで、P、G、G、F、と六接点のセレクタースイッチを使用しており、もっとも、SCR調光装置の効果を發揮するスイッチの様です。

P……プリセットの略で、一シーン、二シーンとクロスする場合は全てこのスイッチはPの位置にしなければなりません。

G、F……各々グループの選択です。G……フリーの略で単独の意味です。

このPFGスイッチで、FGにしたものは全て操作卓で操作します。即ち操作卓には第一シーンがあり、二と三シーンは別になっております。そしてこのPFGスイッチは操作卓の第一シーンのみにあり、二と三シーンにはありません。と言うことは、F又はGにした場合、操作卓の、フリーなりグループに接続され、P(プリセット)とは切り離れますので、二、三シーンで操作することなく、シングルフェーダー又はグループフェーダーで操作することになります。但しその他のシングルフェーダーがPの位置にあるもの

は、プリセット選択スイッチで選択しクロスフェーダーで操作しなければなりません。又PFGそれぞれ同一目盛にあればスイッチで切替えが出来ます。二、三シーンのものを操作卓で操作することも、又逆にFGのものを二、三シーンに替えることも自由に操作出来るわけです。

6、直操作ボタン

これはTVからの影響でしようか、一回路六Kのものが六十回路、三シーンまでありますが、舞台照明の場合には、あまり多い様に感じます。この直回路の二シーンから三シーンを選択操作するボタンです。

7、その他、前述の通りです。

二、プリセット盤

これは今迄のプリセットスイッチ盤と異なり、二と三シーンのシングルフェーダーと直回路の二から三シーンのシングルスイッチが配置されております。このシングルフェーダーはPFGスイッチでPの位置にした時のみ、クロスフェーダーを操作して、二と三シーンを使用するもので、明り合せで決められた目盛を各シングルフェーダーにセットするだけで、クロス変化がスムーズに出来ます。非常にテンポの早いもの変化の激しい時にはSCRの醍醐味を感じます。

三、パツティング盤

オートの場合と交りありません。現在ではピンボード方式と言うのも出来

ておりますが、私共で少し変わっていることは、前にも述べましたが、プリセットスイッチの無いことです。本来SCRと言うものが調光器でなく一つのスイッチであると言うことから、一回路に一個のSCRを原則にして、理想的にはそうなのですが、色々事情もありまして言う言わげにもまいます。一回路一つのSCRがあれば切替(直調)スイッチはいらないんじゃないか、と言うことになり、残念ながらありません。やはり舞台照明の場合にはプリセットスイッチがある方がいい様に思います。もちろん私共はスペースの問題もありました。結局フリー回路を点灯するためには、直回路又は調光回路のどちらかにパツティングしなければなりません。

四、スイッチ盤

舞台照明に必要な回路は全て、ノーヒューズブレーカーによって二〇〇回路がこの盤に収納されております。

五、パイロット盤

各パートごとに分れたパイロットとなっています。即ち、フロント関係、ステージ関係、吊物関係の三種で非常に見やすく便利です。

六、主幹盤(別室)

八〇〇A四Pスイッチを始めとして各主幹スイッチが組み込まれております。

七、ユニットラック(別室)

んこのことは照明プランナーを始めとして、関係者全部が研究しなければならぬ問題ですが、本当にSCR調光装置が、こうでなくてはならない、こういう操作は出来ないだろうか、こういう装置を考えてほしい……等と批判出来るのはそれからの様にも思います。我々は決して

て今のSCRに満足しているのではありません、まだまだ電氣的な問題、操作回路の問題、又操作室の問題……等、数多くの問題がのこっておりますが、今回は操作方法について未熟ながら気の付いたことを記してみました。

我々照明の世界もSCRを始めとして

(大阪府厚生会館)

第4回 日本照明家協議会議事録

出席者

東京地区 小川、前田、和田
中部地区 拓植
関西地区 岡田、上地、奥田

山城、熊沢、尾崎

左記議題を東京地区より、提出し、各地区共通議題であるので、東京家をモデル議題として検討す。

(1) 協議会会計報告

前田氏より報告、一同了承、会報に記載及び各地区ニュースにも掲載報告することとする。

(2) 設備規準委員会に関する件。

(小川氏説明報告)
記号統一、ハンドブック作成、設備規準の三つの委員会を同時にスタートしたが、委員の中には二つ以上の委員会に所属している者もあり、又、率直にいうと、力不足のことも考慮し、記号

統一とハンドブックの発行まで一時見送る状態で行ってきたことを説明、了解を得る。

(3) 舞台、テレビ照明器具、名称記号統一の件。

各地区案を委員会に於て検討の結果最終案を説明し、記号統一の決定したき旨(別紙図表参照)説明せしところ、関西地区より送附せしものは、決定案ではない由説明あり、若干の修正意見がでたので、委員会に報告再検討の上最終案を各地区に通知の上決定することとする。

(4) 舞台テレビ照明ハンドブック発行の件。(小川氏説明)

今日迄の経過報告、並びに或る程度の具体案を提示して、編集の根本方針と今後の具体的活動を協議する。編集の根本方針を原案通り了承し、

て、調光装置、各器具がやと近代に合った様子が致します。しかし、もともと開発精神を發揮するならば、未来はすばらしい機器が出来ることを確信しております。

(大阪府厚生会館)

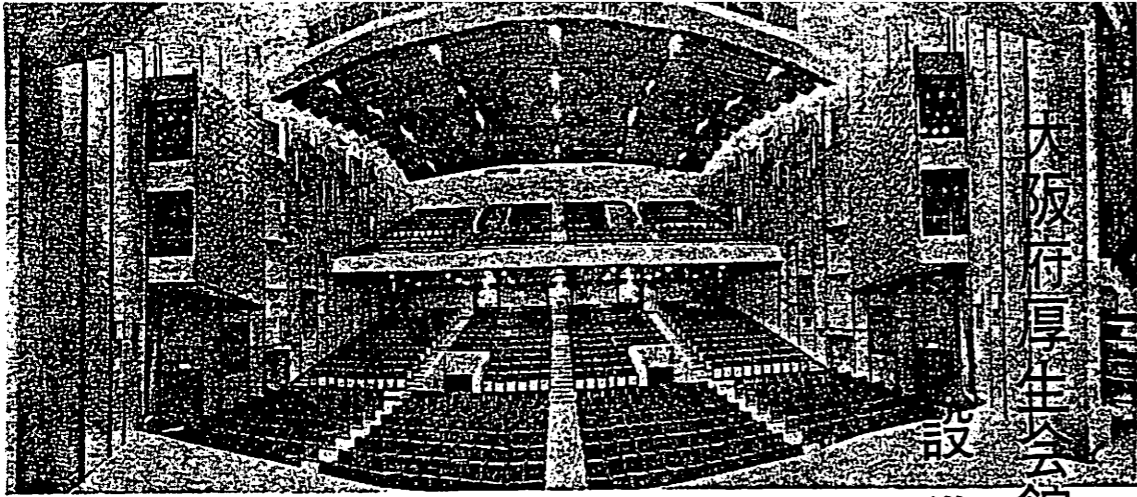
昭和40年12月4日
宝塚松竹寮にて

今後の分担等を談合、早急に発行する様各地区も協力を約す。

(5) 会員証明書発行の件。

現在直ちに正式なライセンスを発行することは不可能であり、能力査定に及ぶ様な問題は後日の検討に待つこととして、協会として証明出来る範囲の証明書、例えば協会入会後の年数、または、経験年数(プロとしての経験年数調査は専門委員を置く必要があり大変な労力を要する)及び所属等を記入したものは発行可能である。この場合型式は出来るだけ全国的に統一したものが好ましい。等々……検討の結果、発行主旨は各地区了承するも、型式は各地区自由とすることにす。
関西地区は既に発行済みにて、地区所属のみ記載してある。参考に見本として頂く。

一つ一つのラックに六KWユニットが三個配置され、合計三面、九六個ユニットが収納されており、全て強制空冷装置があり、温度に対する処置がされております。直を調光室、ユニットラック室は大型パッケージを設置し自動温度装置で一定の温度を保つ様に設備してあります。
以上大阪府厚生会館文化ホールのSCR調光装置を簡単に紹介しました。今日で約一年使用したのですが、その間に感じたことは、保守面に於いては、ホコリに注意することです。フェーダーは弱電で操作している関係で非常にデリケートに出来ておりますので、ホコリが入りますと、点灯しなかったり、途中で消えたりすることがあります。その外は本当に手を入れることは無い様です。操作方法については操作卓で述べた通り、その装置のくせを十分知ること、理解することが大切だと思います。SCR調光装置がオートトランス方式では出来ない色々な面を持つていることも事実ですし、そのことが我々照明家の創造芸術にプラスになるか、マイナスになるかは、その装置に携わる者の操作に左右されることも事実です。そのことを操作する者は十分理解し操作技術の未熟なことを、SCRの精にしないで今一度考えることこそ大切だと思います。結局現在のSCRが照明の世界で十分満足の出来るものにするためには、先ず使いこなすことです。もちろん



大阪府厚生会館文化ホール

設備概要

所在地 大阪市東区森之宮西之町六五四
 使用者 財団法人 大阪府厚生会館
 建築工期 大阪府厚生会館第二期工事
 起工 昭和三十八年十月二十日
 竣工 昭和四十年三月二十八日
 敷地面積 四、〇九六・五八㎡(一、二
 三九・二二坪)
 建築面積 文化ホール一、九六三・一七
 九㎡(五九三、八六二坪)
 電気設備
 受電設備 三相七五〇KVA
 発電設備 三相四〇〇KVA
 蓄電設備 二〇〇AH
 調光電源方式 三相四線一〇〇V
 舞台動力設備 三相七五KVA
 空気調和設備 温度湿度調整装置
 観客席一階二階式
 一・二階合計 固定席 一一八八席
 補助席 一五四席
 楽屋 洋式 全室にて約一五〇人(二〇
 一号~八号 但し、一号~六号は、ハ
 〇人収容可能)

ホール電源(第二電気室)
 舞台照明 客席用 七五KVA×三台
 TV中継用 三〇KVA×一台
 客席照明
 白熱灯 三百W×二灯 一〇〇W×
 三三灯 三〇W×六灯

舞台照明
 総主幹 八〇〇A四P(客席照明分を
 含む)
 負荷回路 二二五回路
 調光回路 六KW、SCRユニット九
 ユニット(客席調光を含む)三段
 プリセット方式一部固定回路有り
 (アップパー、ポーター、フロント、
 シーリング)
 フットライト 六〇W×七二灯四回路
 特設花道用フットライト 六〇W×三
 六灯二回路(上下共、共通)
 第一ポーターライト一五〇W×八〇灯
 (二〇×二〇……四回路)
 第二ポーターライト一五〇W×六六灯
 (一六×一六……四回路)
 第三ポーターライト 一五〇W×五六
 灯(七十七……四回路)
 アップパーフットライト 五〇〇W
 ×六〇灯(五十五×五十五……三回
 路)
 各々、ポーター、アップパーフット
 トには、二〇AT型コンセント三ヶ
 口八回路付
 第一サスペンションライト T型コン
 セント三ヶ口二回路
 第二サスペンションライト T型コン
 セント三ヶ口二回路
 フライブリッジ T型コンセント三ヶ



第4回全国協議会開催記念
 後列左より・山城・前田・尾崎・上地・熊沢・奥田
 前列左より・和田・小川・拓植・岡田の各委員



協議風景
 左より・上地・岡田・拓植・小川・和田・前田の各委員

(6) 臨時人件費改定の件
 結果的に各地区同額となることは望
 ましいが、原則としては、各地区、別
 個に定めることとする。全国統一を目
 標とするも、地域差などの問題で差し
 支えが起る場合も予想されるので、
 各地区毎に定めることとする。
 (7) 会報に関する件
 会報を出来るだけ定期的に発行す

る。若し経費の点に問題があれば経費
 移換の方法を考慮し、年間三回の発行
 を維持したい。
 (8) 協議会名称変更の件
 近く、東京地区では「舞台照明家協
 会」を「舞台テレビ照明家協会」と変
 更する案が提出されているので、協議
 会にも、テレビの文字を加えては、と
 の提案を東京地区より提案するも、協

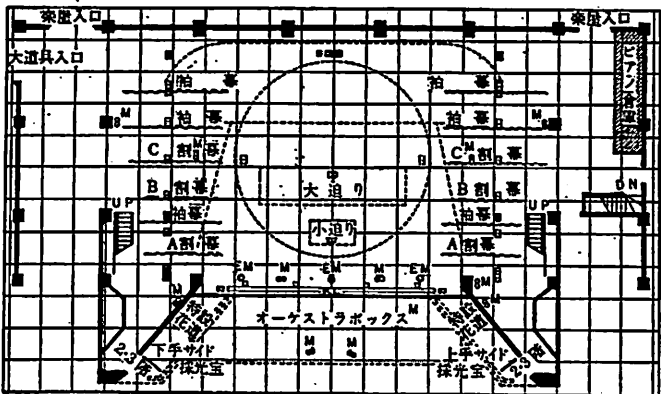
議会としては変更案を見送ることとす
 る。
 (9) 各地区協会の会費の件
 東京地区のみ会費が少ないが、他地
 区会員に影響はないか、との質問に対
 し、他地区会員に影響はなく、東京地
 区のみ問題である。従って東京地区
 独自に検討することとする。
 (10) 協議会の運営に関する件

規約の再確認と運営方針の検討をす
 る。
 即ち協議会の性格と責任の所在等に
 つき、申合せ事項等を議事録として、
 会員に知らせる必要がある。
 尚、協議会幹事は各地区協会に於て
 決める。
 連絡は各地区協会、事務局が担当す
 る。
 MEMO
 会員の入会資格について。
 a 東京は、プロとして経験年数、二
 三年を経た者を有資格者としてお
 する。
 註 (東京は、劇場、テレビ会社、
 フリー、及び、照明企業体所属と
 を同一に取扱うため)
 b 関西は照明に関係する職業者。
 関西委員より提案。
 協議会臨時照明作業を依頼する場合
 協議会以外の者を使用しない様に協力
 する様要望の発言あり。 以上

口八回路

フロアコンセント 三〇A A型コン
セント×四二回路 五〇A (アーク
用)×四回路
廻り舞台コンセント三〇A A型コンセ
ント×六回路
サイドギヤラリ 三〇A A型ウオー
ルコンセント×四回路
スノココンセント 三〇A A型ウオ
ールコンセント×八回路
ミラーポール専用コンセント(調光室
よりリモートコントロール) 舞台、
スノコに各々一回路
フロントサイド投光室 四室
各室 一KW (フレネルレンズ) 三
台……一回路(コンデンサー
レンズ) 六台……二回路
但しF投光室のみ、DCア
ークスポット、ピンランプス
ポット設置

シーリング投光室
第一シーリングT型コンセント、二
ケロ二回路一KW (コンデンサー
レンズ) 二四台 二回路、但し二四
台の内二台のみ(一回路) マグノ
カラー付
第二シーリングT型コンセント二ケ
ロ、八回路 一KW (コンデンサー
レンズ) 一六台 二回路
センター投光室 上手、下手各一室
DC六〇Aアークスポット
三台



DC五〇Aアークスポット 二台
ブレンカート縦型二連式 一台
その他
二KW (フレネルレンズ) 一〇台
一KW (フレネルレンズ) 二四台
五〇〇W (フレネルレンズ) 一九台
一KW (コンデンサーレンズ) 二五台
五〇〇W (コンデンサーレンズ) 二六台
AC五〇Aアークスポット 二台
マシーンスポット 二台
マシーンドラム(先玉付) 二台

エフェクトディスク 雷×二 雨×
二 雲×二 波×二
イナズマ 一台
オーロラマシン 一台
リップルマシン 一台
ミラーポール 二台
ロアホリゾントライト 一五〇W九
灯用 一本
ストリップライト 一・八m (二間
物)
八灯用 一〇本 〇・九m (三尺
物)
四灯用 一〇本
花道用フットライト 五・四m六〇
W 十灯用 六本
オーケストラ指揮者用 ピンスポッ
ト 一台
タワー 移動用 二基
スタンド 三五本
ベース 二五ヶ

音響設備
高速立体音響装置
主増巾器 五〇W×七三〇W×二 (モ
ニターニチヤンネル用) 一〇W×三
調整率 六チヤンネル×一 (マイク入
力×二ライン入力×二ラインイ
ンビダンス六〇〇〇舞台入力ライ
ン×五〇
スピーカー
プロセニアムスピーカー……指向性
三ウエイ×三ウォールスピーカー……
…コーンスピーカー×一九シーリン

グロブワイヤレス
三チャンネル 自動追従式
テープレコーダー リモコン付
フルトラック×二 ニチヤンネル×
一 ハーフ×一
レコードプレーヤー
二連式×一 (モノ・ステレオ)
マイクロホン
コンデンサー×二 ペロシテイ
(単一指向性)×一四 ダイナミック
×一四 エレベーターマイク×三
ヶ所
T.V.中継設備
カメラコンセント×一〇
マイク回線一式 中継端子盤 中
継電源完備(自家発切変可能)
映写設備
三五%映写機一式(セントラルF一
〇一型) シネスコ ビスタビジョ
ン スタンダード
一六% 映写機一台(一KWランプ
用) 幻灯器 一台(一KWランプ用)
スクリーン巾二・五m×五・八m
設計者 KK 大阪建築事務所
施工者 KK 奥村組大阪営業所
SCR調光設備 東芝商事KK
舞台照明設備 KK松村電機製作所

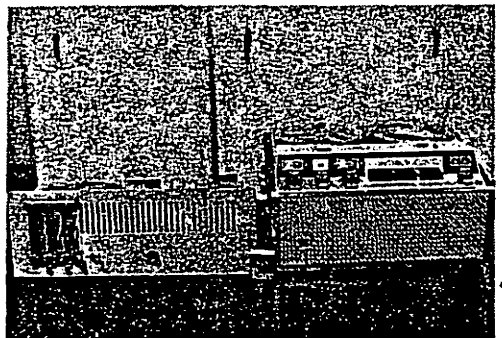
木本 敏 夫

— 照 明 研 究 —
SCR (サイリスター)
自動調光装置について

西村 政 夫

最近の半導体技術の発達により、SC
R (シリコン制御整流素子・一般用語サ
イリスター) を使用した調光方式が広く
採用されつつあることは、皆様既によく
ご存じのとおりです。ここでは、そのS
CR調光装置にテープレコーダーを組合
せた自動調光装置につき述べさせていた
だきます。

SCR調光装置の手動操作による変化
要素は、フェーダー(可変抵抗器10~20
KΩ)を摺動させ抵抗値を変化させるだ
けです。この操作により制御入力(DC
10V数mA)が10V~0Vに変化し、ゲ
ートパルス発生回路のゲートパルスを発
生する位相角を0~180度に変えます。
SCRはゲートにこのパルスを受けて、
照明用電源を10V~0Vに制御する訳で



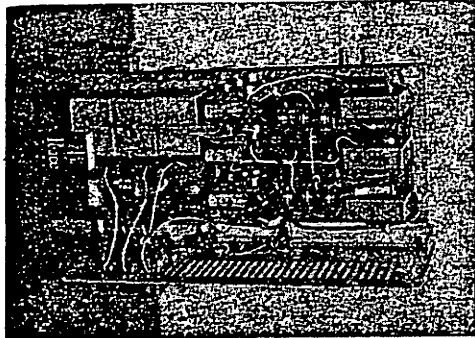
図一 SCR自動調光装置

す。この制御入力は非常に小さい勢力で
すから汎用テープレコーダーに十分記
録、再生できるのではないかとこの
が、この自動調光装置の発想です。即ち
マイクホンに代えてフェーダーよりの
調光制御入力を録音信号に変換しテー
プに記録させ、再生信号により調光操作を
自動化しようとするものです。

自動化のための装置としましては、次
の装置を設けております。

- 1 汎用テープレコーダー
- 2 記録用変換回路
- 3 再生用変換回路
- 4 電源部

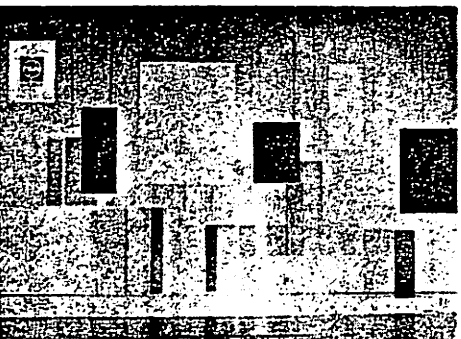
記録用変換回路は(1)限られたテープチャ
ンネルに多数の調光回路の制御信号を重
畳、記録させるための高周波発振回路



図二 内部構造

と、(2)発振高周波出力を制御入力の変化
に応じて録音信号に変換させるための録
音変換回路。再生用変換回路は、(1)重畳
したままの再生高周波出力のフィルタ
回路と(2)夫々の再生高周波出力を元の制
御入力に変換する整流回路を一つのユニ
ットにセットしてあります。電源部は変
換回路用として定電圧装置を付加してあ
ります。

図1、2、の自動調光装置は弊社中央
研究所講堂の特殊照明実験用として試作
したもので、図3の加法混色、減法混色
による三原色の色の変化を音楽に合わせて
Synchronized display を実演するた
めに用いております。図4、は簡単なプ
ロックダイナグラムを示しております。
調光回路は赤、青、緑の三回路とし、テ
ープレコーダーは「ナショナルRS-77」



図三 色彩音楽の実験

を使用し、1ch側に音声信号を、2c
h側に三色回路の制御信号を夫々五〇〇
KC、一〇〇〇KC、五〇〇〇KCに変
調して重畳させてあります。バンドパス
フィルターを高性能に設計すれば、1c
hに5回路程度迄の制御入力を重畳でき
ますから、市販の4chテープレコーダ
ーを若干改造すれば20回路程度迄記録す
ることが可能です。また、SCR調光方
式の最大の特徴であるフェーダー回路の組
合せにより一斉調光、グループ調光、個
別調光が自由であるということも、この
装置に於いても、夫々任意のフェーダー
より制御信号をとり出し記録再生でき
る訳ですから、いかなる手動調光も忠実
に自動化できますから、商用劇場等にも
十分使用出来るものと思えます。

操作方法を順序を追ってご説明しま

- 1 記録時は切替SWをS1側に投入し、テープレコーダーは録音にセットしてスタートします。照明プランにもつき各フェーダーを手動操作します。各々のフェーダー操作により電圧変化した制御入力に記録変換回路にも送られ、夫々の高周波発振出力を録音入力に変換し、重畳してテープレコーダーの録音端子よりテープに記録されます。
- 2 再生時は、切替SWをS2側に投入します。テープレコーダーは再生にセットしてスタートします。(フェーダーは0目盛にして制御入力に混入しないようにしておきます)再生端子から出た再生出力は、再生用フィルター回路でフィルターされ夫々の色回路の再生用整流回路で元の制御入力に変換され、パルス発生回路に送られ、手動操作を自動的に再現する訳です。

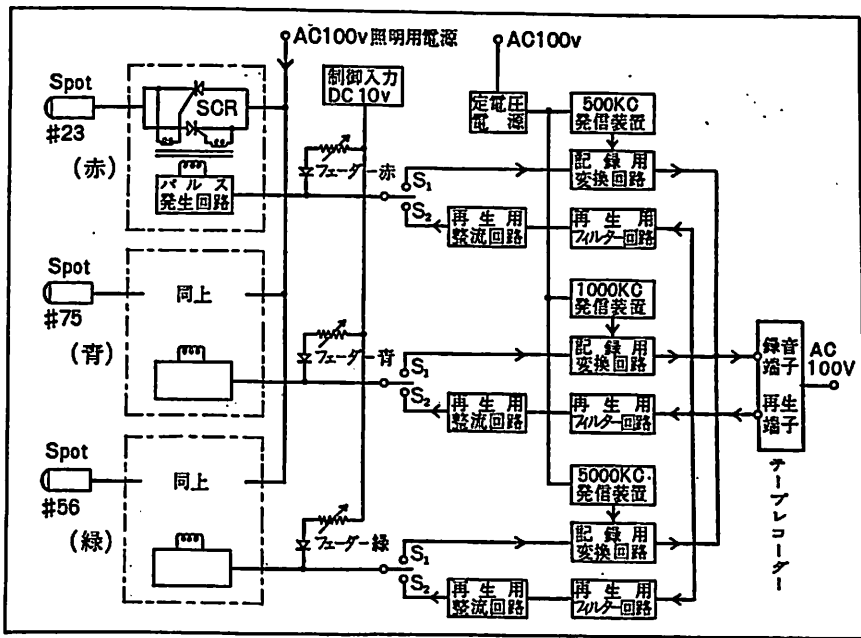


図-4 自動調光装置ブロックダイアグラム

- 3 テープの組合せ編集を工夫すれば、非常に複雑な操作困難な調光も可能となり意欲的な照明プランを企画することが出来、テレビスタジオ等でもカラー時代を迎えたい利用価値がある。
- 4 噴水照明や、ネオン広告も、テープさえ交換すれば音楽に合わせて変化に合った照明を愉しむことができる。

され、舞台でトチるのは演技者だけという、愉快な情景も夢ではなくなり、照明家はより良い照明プランを作製するといふ本来の仕事に専念できるものです。(松下電器産業KK)

た。もっともこの間相変わらず居見物は止まらず、築地小劇場・飛行館・歌舞伎座・東劇等々と通いつめた。その頃「若尾をさがすなら教室よりドムに行け」といわれていた。早大正門前に、今も民芸で活躍中の鶴丸陸彦さんが奥さんと一階にドムという喫茶店を出していて、殆んど毎日、ここにトグロを巻いていた。ドムでの思い出は私にとって、まことにつかずかしくまた貴重なものである。これが、私を決定的に芝居のトリコにしてしまった場所であった。

当時、築地小劇場では、天草嘉、岡田猪之介の両氏、飛行館では穴澤喜美男氏を舞踊の世界では、もうなくなつたが松村爽、大庭三郎、松崎国雄等々の先輩諸氏の名を知り舞台照明家というものを理解し始めた。T.I.L (遠山照明研究所) というものがあるのを知つたのもその頃だった。それでも当時は自分が照明屋で一生を過そうとは考えもしなかった。

昭和十三年初頭、早大卒業を目前にして、当時理工学部の特に電気工学科卒業生は、飛ぶ様に売れて行った中で、私をふくめて三人が売れ残っていた。私の他はそれぞれ一クセある連中だったが最近の名簿を見ると結構、自営で中企業の社長になったり大会社の部長クラスになっている。工場も研究室もどうも行く気にならず、当時の東宝劇場の電機部長、井上正雄氏が学校の先輩と知って、厚かまし

くも直接押かけていった。之には一寸理由もある。卒業の年の秋、もう冬になっていたろうか、学校から東宝劇場に見学に行った。その時配電盤について、説明をし、案内してくれたのが、拓植貞輝氏。機械科出身の二、三年先輩だという。こんな所にも早稲田の先輩がいるなら大丈夫という気になったことが、それである。そういうえばその時の拓植先輩は、やけにムツかしい、恐ろしい人に見えたものだ。卒業に一月もない一三年二月、再三井上正雄氏をお訪ねしたが中々うんといつてももらえない。こんな仕事に入つてはよくないといふお説教ばかり。それでも押かける私に井上さんも諦められて、最後にお訪ねしたときは、とに角卒業試験が終わつたら来て見なさい。ということになる。

三月六日だったか午前中の最後の答案を出すと、不安と期待に追いかけられて有楽町の東宝劇場へ駆けつけた。恐る恐る入つていった私の顔を見ると井上さん一言、「着かえをしてすぐ仕事に入りなさい。」一寸あつけにとられたが、そのまま入社してつた。おかげで卒業のあと一ヶ月位は、気儘な旅でもして思つてた計画はオジャン。とうとう照明屋の一步を踏み出してつた。頼りに思つていた拓植先輩は私が入社する一足前に召集で出られたが東宝の照明部は、中本猛雄氏を頭に女房役の松浦光次郎氏以下温和で親切なグループで何にも分らない

私にとってはまことに第一歩だった。暗転をトチって舞台から怒鳴られたり、大道具の操作盤にいてドロップを下ろし忘れたり、奈落のドム底までおつこちたり、何をやらされてもトンチンカンで手が遅く、今思い出すと全く顔から火の出る思いだ。昭和十三年大学卒で同じ東宝に入社した連中が十数人あって、タイガークラブと称して同期生会をつくっていた。今では東宝に残っている人も少なくなった。洋画をやっている人は重役になっている金子操氏、この人が出世頭か。他に名古屋に渡辺幸三氏、位のものかも知れぬ。傍系では東宝舞台の固分桂一郎、この人とは入社初年兵の一年を東宝劇場で一緒に苦労した一番の仲間だ。甲種合格の私は、昭和十四年三月いやはなしに兵隊にとられ電信第一聯隊に入營する。以来終戦迄の軍隊生活が続いて行く。昭和十五年、北支は済南で、旧友加藤衛の送ってくれた「新劇団解散」の切抜を眺めて撫然とした記憶は今もなお新しい。終戦は再応召の東京都新島で迎える。あてのない長い年月だったとして空白な。帰って来たあとは、名古屋を中心各地の焼跡での映画館復興に追われ、舞台とは遠くなる。建設が一段落する頃、知らぬ間に労働組合に抜差しならぬ程足を突込んでいた。昭和二十年、例の東宝争議。「軍艦だけが来なかった」といわれる八月の斗いを頂点に十月末妥結。妥結条件として伊藤委員長以下一八

私の履歴書

若尾正也

今正三年十二月十五日、横浜に生れる。押迫って生れたせいか、今もってロセコセした、あわて者である。

横浜生れの中学生が概ねそうである様に、中学に入った頃の私は、海に憧れ海軍兵学校や高等商船を志したものだ。中学は横浜一中——横浜の人は「神中」と呼んだ。私達のクラスは案外面白い連中がいて、現在横須賀市長の長野正義先生の薫陶の下で、比較的人間らしい生長をした。横浜市長飛鳥田一雄、横浜演劇研究所長加藤衛、フランス文学者寺田透、等々が同窓でこうした一風変わった人達の中で、極くおとなしい平凡な私も、少しづつ影響をうけていった。やがて、人並の本道を外れる下地が出来たのだろう。中学を卒業する頃は海軍兵学校志願はあとかたもなく消えて、早稲田に入る。早稲田第一高等学校(早大の予科)の一、二年はラグビーに明け暮れた。二年生の半ば頃からか、盛岡中学から出て来た自称啄木の後輩、以島次郎という男から新劇というものを教えてもらう。まだ第一次新劇協団が生れず、瀧沢修等が美術座をつくつた頃だった。以来大学を卒業する迄の五年間はせつせと芝居見物が続けられ、一方、電気工学などクソ面白くもなくなり学校はきらいになつて、遂に飯及第のウキ目に会う。

学部に入つてからは、さすがに改心したのか、どうやら中位の成績を保つておとなしく理工学部学生で終りを全うし

名の退職となり、私もその中に入る。この半年程の斗いは私を充分に鍛えてくれ、私の後半生を方向づけ、打撃してくれた大切な月日であった。離職した私は、特別に仕事の目当もなく、東宝の社員アパートを出て以来、転々と転居を続けながら照明屋で生きることを決意した。そんな私に、笹崎岩雄氏(昔の佐後屋岩雄氏)始め多くの人が忠告してくれたものだった。照明では食つて行けないと。全く当時の名古屋で、フリーの照明家の生きる道はなかった。大変向見すの追いつめられたやり方だったものだ。劇場やホールには専属の照明家がついて貸ホール式のもの、松阪屋ホールと名古屋合唱団ホール(今考えるととても貸ホール等いえた代物ではない)しかない。頼む方でも照明などといつてくれない。「電気方」でしかない。それでもオメオメ東京に逃げ帰りたい一心で、しがみ付いた照明の仕事は当初、女房と二人の劇団の連中の手をかりて始つたものだった。以来、既に一七、八年になる。最近、サボつてばかりでもう照明屋の資格はなくなりかけているらしい。とまれ、よく生きて来たものだと思ふに感慨無量……。しかしまだ大先輩が第一線で仕事をしておられるのに、こんなことでは、いけないと思ひ直す。今年はいよいよ一度照明屋にならなければ、新年早々自らいよいよくめてやる。

舞台照明界の功労者

故 神保道臣 両氏追悼特集

神保道臣殿は昭和三十六年一月十一日、上条甲午殿は昭和四十年十一月七日に永眠されましたが、御両氏共御生前、宝塚、松竹に於いて、それぞれ舞台照明界に輝かしい功績を立てられました。ここに御両氏の業績を偲んで、改めて追悼特集となし、私達一同謹んでその御冥福を祈念致します。

神保 操

桜も散って快よい初夏の候となりました。毎日お忙がしくお暮しの事と拝察します。道臣死去の節は、遠路を大勢様でおまいり下され、又多大のお香料を賜りまして、ありがたくお礼申上げます。故人もさぞかしうれしかったらうと推察いたしてあります。生前大してお役にも立っていませんでした。お懇情の程家族一同感謝

いたしております。主人の事を尋かして頂きますのも、貞臣(御長男)からとうとう私の方におはちが廻って参りましたのですが、私にも子供たちにも、それぞれに父に対する思いは、数多くありますもの、さてと改まる何から筆を起してよいのやら、あれもこれもとこみ上げて来るものはございますが、一向に文才のないものばかりですし、又皆様知って頂く程の事でもないで……

経歴など

明治二十七年七月十日東京原宿に軍医の子として生まれ、成城中学卒業、早稲田大学高師部理化学科(今の理工科)に入學、大正八年に卒業しています。その年東京電気に入社。専らガラスのことを研究したと聞いて居ります。大正十二年四

月からは大阪松竹座照明部に入社。十三年宝塚に移り、以後二十二年間戦災に会うまで働かせて頂きました。その間昭和十一年秋から半年社命により、歐洲(主としてパリ、ベルリン、ロンドン)の各劇場を視察して廻りました。丁度その頃から岸田辰弥氏白井鐵造氏などの「モンパリー」とか「花時集」とか或は岩村和雄氏のパレーなどが次々と上演された時代となりました。戦災後は京都府下和知に家族一同疎開しましたので一時和知の鉦山に勤めましたが終戦一年後神戸に帰り大劇の囃子などをして其後二十五年から三年ばかり東京明治座に勤めました。

てくれましたし、若い時には音楽を樋口信平氏、パレーをエリアナバヴロヴァ嬢に習った事もあると聞いて居りますし、よく家ではオーケストラのスコアを見ながら、レコードを聞いて居るのを見かけて居ります。写真もマニアとまではゆきませんでしたが、ヨーロッパ旅行中の方々で写したものを引のばしたりカットしたりして、大きなアルバムに整理して六七冊もあったでしょうが、併しこれは惜しい事に戦災で失ってしまつてほんとうに残念に思つております。

早稲田時代は弓道部選手として方々に遠征したらしく、メダルや記念品などが残つて居ります。その頃のことでしょうか、亡くなられた友田恭助氏や小川昇氏和田精氏等と「友だち座」というのを作つて、いろいろと研究をしていたそうです。職業が邦楽、歌舞伎クラシック音楽、パレー等、聞けば大抵の事は説明し

家では職場のことはあまり口にしませんでしたし、子供達がまだ小さい頃は、休日には元町あたりに連れ立って散歩に出るのを楽しみにして居りました。戦後は家の事情もあつて家族が神戸、東京、和歌山とバラバラに住んで居りましたが、やっと皆近くに住める様になつて喜んで居りましたのに、それだけに、急死いたしました事は、本人もさぞ残念だったらうと推察いたします。

照明十誠

神保道臣

舞台照明は曲芸ではない

神保道臣

※ 照明は舞台に於て始めて芸術化されるものである。

※ 照明は「……でなければならぬ」よりも自由である。

※ 照明は観客に事さらに意識せしめてはならぬ。

※ 照明は舞台の感情である。

※ 照明は色彩の調和である。

※ 背景が場所ならば照明は時である。

※ 照明は観客の眼の為にのみ行なうものではない。

※ 照明はあくまで従である。

※ 照明は直感である。

※ 照明は華麗萬象である。

「歌劇」第六十号(大正十四年三月) 舞台装置研究号)

私も今日から当所の人となつて働くことになりました。小林校長(故小林三三氏)から今後の舞台芸術に就ての御希望を承りました。そして舞台照明に対して行く末は照明あつての舞台芸術でありたいとの御話でした。私はその意をよく解し得ました。一生具命やりましょう。

舞台芸術で照明がやかましく言われて参りましたのは、ほんとうに近頃のことです、それだけ世間から大分誤解されて居る点が多いようです。私等が一番辛いと思う点は時折、作者、舞台監督或いは観客から舞台照明に対して奇想天外を夢見られる事なのです。御承知の通り私等は手品師でも魔法使いでもありませんから、理論外の曲芸は出来ないので、光を途中から曲げるとか、光線にあたりず

に光線の中で踊りを見せるとか、黒い光線を出せとかいう註文を今迄にも度々聞いたことがございます。斯ういうことは出来ない相談で、又斯ういうことを成そうとするのが照明の真意義ではないと思

います。舞台照明の真意義はもつと真面目な立場から考へて作者に或いは舞台監督に忠実でなくてはならないと思ひます。即ち作者が写実本位で作られ、舞台監

督が写実本位で演出しようとしたならば、照明もまた写実的に行なうのが普通であり、演出が出演者本位なら、出演者を標点とする照明法を行なうべきでありましょう。

要するに脚本による感情の取り方で作者或は舞台監督の意志にまで出来るだけ観客の気分を引入れるようにすることが最も必要な事で御座います。斯う申して参りますと照明を成す者には何も権限が無いもののように思われま

すが、決してそうではなく、作者や舞台監督は上演物に対する御自分達の意志を充分に伝えて下されれば良いので、それから先は照明を成す者の権限であり責任であります。

例えば夜の気持を表現させようとする場合、何時でも背を照らすのみが良いとはいえないし同じ背と申しましても緑掛つたものを用いるか、紫掛つたものをとるか又その明るさはどの程度にするか、全体のエックスプレッションはどうして出すか等は照明を成す者にまかせる事柄でありましょう。

私達は斯うした事柄から一つの芸術を作り上げ、上演者や舞台装置家と共に舞台効果を表わす事に努力しなければな

りません。舞台は総合芸術の発表場だけに私達の責任も重大であります。これからは種々な事に会合する事で御座いますし、要はこれまで申し上げた事に依つて御座いますから、作者や舞台装置家と一緒に研究しつつ良い作品を作りたいと思ひます。

終わりに一寸申し上げたい事は、私達にもやっぱり絵を画く人が絵具を選ばれるように、寧ろそれ以上に器具の良いのを選びたいので御座います。それは随分弱い事の様ですけれど何んといつても取り扱う物が主として機械、器具で御座いますから或る程度迄は、器具の選定が必ず必要な事を御承知願ひ度う存じます。兎も角も何分私も照明を研究し始めてからまだまだ日が浅う御座いますので、これから皆様から色々教えていただく事が多くある事と存じます。その節は又どうぞ宜敷く御願ひ申上ります。

「歌劇」第四十九号(大正十三年四月一日発行)

神保君のこと

遠山 静雄

私が照明設備の設計に関係した劇場やホールには、照明主任を御世話したところが沢山あります。邦楽座の小川君、飛行館の松崎君、名古屋市公会堂の笹崎君、津市石水会館の木塚君などがそうでありましたが、神保君に大阪へ行って貰ったのが最初であります。

もう古いことで、大正十二年の震災前です。道頓堀の松竹座が建ったとき、その設備をうまく使っていたさ度い為、特にその劇場の性格から音楽に堪能な神保君を推せんしたわけです。

ここで神保君は部下を養成し、その人達がやがて関西の照明界に大きな足跡を残し、現在はその三代、四代の人達が活躍されていること存じます。

神保君が大阪へ赴任される時、私達友人は東京駅で見送り、花束をささげました。その花束が、偶然同じ列車に乗った未来の夫人との幸先を飾ることになるとは誰も予期して居りませんでした。が、すくなくともこの瞬間は神保君にとって最も華かな人生の一駒だったので

と察せられるが如何にも同氏らしき旅立ち。唯特に関西の舞台照明界の一大先輩の喪失は誠に惜しみて余りあるの感特に深いものがあります。

知って三十数年の交りながら晩年は性格上あまり世に入れられず常に周囲よりひそかに残念遺憾と同情されつつも誠に善人ながらの生一本が禍し又御当人一向是等を意に介せず毅然とし悠々その日を送る当今珍しくも奇たるを失はない存在でもあった——憶々——。「白使いの名人」といえば知る人ぞ知る。が新人の多い現在の何の事？——舞台照明——舞台の白使い——といえれば推察は易々だろう六十六才といえれば未だ老境に入ったという歳でもなく、まして元気で無病息災だった同氏が今の世に融和されておられなばとつくづく惜まれてならぬ。

同氏の日常の行動の一端に東京明治座へ入り財政痼疾の折柄第一回目サラーイ入手、早速全額を投じ高級ラジオとかギターを買い、むしろ周囲が同氏明日からの生活を心痛したという一例。

又、明治座を退き再び大阪の地へ帰られた直後の或一日、顔色ただならず誠に疲労の面持ちなので様子如何と問えば、スポット一台を受持つのも誠に楽しいが今の人はこの楽しさが分らない様子。今日もこの楽しさに引かれ今使った来た船りだが二日も飯を喰うてないので少し疲れたので一休みさせて貰うつもりで立寄った今から西宮の寓居まで歩いてかえ

ないでしようか。

宝塚へ入ってからの神保君のことは、今でも御存じの方が多しと思えます。

私が東宝へ入ってからの宝塚へ出張するときは神保君の家に泊り、神保君が東京へ出張するときは私の家へ泊ると云ったような次第でした。宝塚の舞台で越路さんを見て、

「あれは将来のものになるなあ」と話し合ったこともありました。

職を失ってからの晩年の神保君は誠に気の毒でした。

大体神保君は処世術にたけた人ではありませんでした。否非常に下手な人でした。どちらかというとき自己の狭い世界の中で悠々と楽しみ度い方でした。仕事も趣味も時間も自分なりに消費して自適しているように見えました。ですから、ロンドンのマドロスパイプをいじくりながら、紫煙をくゆらしている姿が一番似合う彼でした。今どきのせち辛い世の中には不向きな方です。どうしても大正の良き時代の人といった感じでした。

こうした性情は、一面芸術家にとって大変貴重なものであります。現実の世界におつかると厄介な事が起ります。神保君はその荒波に巻き込まれてしまいました。残念です。

晩年の不遇を自らかこつ言葉は一度も聞いた事がありませんでしたが、私にはひとごとと思えぬ悲しさを身にかけて居りました。風呂に入ったまま心臓麻痺で

死んだのですから、苦痛は無かったでしょう。私には、それがせめてものなぐさめでありました。

舞台照明草分けの同志神保道臣君は終にその命を終えました。時に昭和三十六年一月十一日。ひたすら冥福を祈るのみです。

神保君に謝る

小川 昇

神保君の突然の訃報は大きなショックだった。然しどうしても本当のこととは思はれなかった。変な言い方だけれど、神保君が死ぬなんてことは全く考えてもみなかったことなので、実のところ未だ彼の死が実感として迫って来ないのである。あの少し曲った顎をつき出した顔がヒョコリとドアを開けて入って来そうに気がしてしかなかった。

彼とは四十年來の交りで思い出は語りつくせぬものがある。宝塚時代の仕事は立派なものだったし、仕事に対する考え方もたしかに一本筋が通っていたと思う。照明家として立派な技術を持ちながら、戦後はそれを生かすことが出来なかったことは全く残念なことだった。彼の

るつもりと至極平氣の言。これにはこちら一驚を喫しとるものもありあらず井一杯を頼んで喰うという始末——等々尽きぬ思い出の数々を残し今や忽然としてなし——君安らかに願え——憶々——。

マドロスを衝へた同氏の面影を眼前に浮べつ。

上條甲午殿の思い出

前田 二郎



故・上條甲午氏

協会の名と会員上條甲午殿がこの十一月七日亡くなられました。私が上條氏の許で仕事をしたのは昭和四年九月開場した新宿新歌舞伎座（今はない新宿第一劇場）で、約二年間でしたがその後も同じ松竹傘下のことであり陰に陽に御世話になりました。

思い出を書くと数かぎりありませんが

照明についての信念のようなものが世に容れられず、それがかえって彼の晩年を不幸にしたとしたら誠に悲しいことである。それにしても少し淋し過ぎる晩年だった。

神保君許してくれ、君がこんなに早く亡くなるだろうとは誰も考えていなかったのだ。だからいつか必ず君を必要とする時が来るものとのん気に考えている間に君は待ちきれないで逝ってしまったのだろう。

本当に申訳ないことをした。然し君の残したものは決して消えてしまうものではない。月並な言い方だがそれは本当だ。ハッキリと残っていることを私達は知っている。だからそれを若い人達に伝えることで君に対して犯した罪の万分之一を許してもらいたい。

神ちゃんを憶う

越山 達

神保氏は去る一月十一日卒然として赴く。

しかも湯舟の中での極楽往生。日頃熱湯の長湯好きとかでその日も何の前おれもなしに。遺族の方々の悲嘆もさぞかし

よう。秋葉氏、大庭氏など遠山氏のアシスタントで劇場へこられ大変困っておられた事々もなつかしく思い出されます。兎もあれ爾後昭和三十年十二月松竹を定年退職をされる迄、一生を舞台照明の第一線に立たれ、そのころスポットなどはなく（あったのは帝劇と、貸器具屋のみ）燈光器の皿に色ニスを塗って照明をして居ったような時代から、前述のキネオラマ技術の導入、または配電盤の改善後輩の育成などに数々貢献され、今日の舞台照明という部門が確立される迄、その基盤を築き上げられた諸先輩の一人として、われわれ一同その御冥福を御祈りいたしたいと存じます。

父のこと

御影 あい子

父の死の報せを受けとったのは、バンコックのあるクラブ。しかも、ショーの始まるちょうど三十分前のこと。

何度やりなおしてもくづれるお化粧を、やっとの事で落着かせ、ひきつる笑顔で何とか舞台はすませたものの、真赤に充血した眼は皆をごまかす事が出来なかった。日本語、タイ語、英語、等、

日本照明家協議会規約

- (組織等)
- 第1条 関西照明家協会、中部舞台テレビ照明家協会、舞台テレビ照明家協会(以下三団体という)相互に共通する諸問題を連絡協議し、必要に応じて協同事業を行う目的をもって日本照明家協議会を組織する。
- (所掌事項)
- 第2条 この協議会の所掌事項は次の通りとする。
1. 三団体相互の連絡を図り、適正な運営について協議する。
 2. 照明技術並に資料の蒐集、刊行。
 3. 総合機関誌の発行。
 4. 三団体所属会員の表彰。
 5. 三団体相互の発展に必要な協力。
 6. その他目的達成に必要な事項。
- (事務所)
- 第3条 この協議会は事務所を東京都に置く。
- (維持会員)
- 第4条 この協議会が行う事業並に趣旨に賛同する法人又は個人をもって維持会員とする。
- (経費)
- 第5条
1. この協議会の経費は三団体の分担金、維持会費及びその他の収入をもって支弁する。
 2. 分担金は会員1名当り 20円
 3. 維持会費は一口月額 1,000円
 4. 経費は年に一回三団体に会計報告を行う。
 5. 会計年度は9月1日より始まり、翌年の8月31日に終る。
- (運営)
- 第6条
1. この協議会の運営は幹事をもって行う。
 2. 幹事は三団体よりおのおの若干名を推薦する。但しおのおの一名は会計幹事とする。
 3. 運営会議の議長はその都度互選する。
 4. 会計幹事は協議会の会計を監査する。
- (附則)
- 第7条 この協議会は三団体の同意を得て設立する。
- 第8条 この協議会は三団体の同意がなければ解散することができない。
- 第9条 この協議会が解散したときその財産は、三団体に按分又は同種の団体に寄附するものとする。

東京都港区新橋3丁目7-6
電話 (591) 1059

日本照明家協議会

代表 小川 昇
関西代表 岡田 猪之介
中部代表 拓 植 貞 輝

いろいろ親切なやさしい言葉で慰めてくれるのだが、舞台人としての諦めと、直ぐにもとんで船り度い衝動とで、苦しい程の孤独さが増すばかり。昼も夜も、十日ばかりは泣いてくらして丁った。

X X X

父が私に残してくれたもの、それは、上にバカがつく程の「お人好し」だけ。でも私はそれを大切な遺産として、今でも大事にしている。

そして、芸術を心から愛した父の娘としていつまでもいつまでも唄い続けたらと思っている。

空即是色

神保さんの御冥福を祈りて

岡田猪之介

私をはじめ神保さんにお逢いしたのは、昭和十一年五月六日。東京数寄屋橋の畔であった。

全く偶然、銀座方面から遠山雄雄・小川昇両先生と三巨頭連れ立って御見えになり、その当時私は築地小劇場にいた関係から、築地舞台照明研究所を主宰した件に就き、恰度良い機会だと種々と懇談したことがあった。その折に宝塚から出張中だという神保さんに始めて紹介され

た。「暫らく東京にいるから、是非遊びに来給え」と言われた神保さん。如何にも芸術家タイプの、気骨のある親分肌、何か頼りになる親しみの持てる兄貴。といった印象を受けた。

その年の九月、東宝グリルで渡欧送別会があり、神保さんは十月十五日神戸出帆の香取丸で、欧州視察の旅に出発された。ナポリ・イタリー・ウィーン・ドレスデン・パリ・マルセイユ・ロンドン等に滞欧二ヶ月という長旅だった。

その頃が神保さんにとって、一番願風満帆、最盛期の時代ではないだろうか。

その後昭和十三年、これまた偶然のご縁で、私が宝塚歌劇団に照明プランナーとして赴任することになり、神保さんと共に日夜お仕事をされる機会に恵まれた。実にお話好きな方で、芸術となると何時間でも飽くる事なく、よくパーラーや、武庫川ベリーの宝塚ホテルのグリルに立ち寄っては、毎日いろいろなお話を聞かせて頂いた。

うまが合うというのか、仕事の関係もあって、まるでおしどり夫婦のように、会社ではしよっちゅう御一語だった。

神保さんはいろんな事の知識が豊富であり、物事を視る眼も鋭く、いちいち共同出来た。

神保さんの担当する舞台稽古には、たとえそれが自分に関係のないお仕事でも、必ず終日つききりて、それを拝見した。神保さんは照明プランを、あとに

も先にも絶対メモされない方だった。キッカケや、投光室の色シートだとか、吊りもの(サス)などは一切その場にならないうと何が出来るかさっぱり判らない。その点、宝塚の照明係は永年の慣習で心得たもので、突然何をいわれても要領よく次々と処理していく。

斯ういうと如何にも無計画な、ぶっつけ仕事のように思われるが、頭の中では実に細かい計算のもとに、全体の出来上りとしての照明プランのイメージが正確に組み立てられていた。

その証拠に、有り合せの色シートの配色で、手際よく思うつぼの、ムードある照明を巧に仕上げていく。色のミックス・配色の妙味は実に見事だった。余程頭の中で、はつきりした答がなかったら、到底真似の出来る芸当ではない。

特にナマあかりの使い方は、水際だつて立派だった。ある時はダイナミックに、ある時はロマンティックに、千差万別の効果を無雑作に演出する。

いままお、その名人芸ともいうべきライトの立派さは、私のまぶたにまざまざとやきついている。実に色使いの、ナマあかりの名人ではあった。さりとして照明プランを替かなくて照明を創るといふ。

これは神保さんなればこそ天下まかり通ったのであり、宝塚という永年培ったチームワークがあったからこそ可能だったので、今の世代又は他の劇場では絶対通用しないことである。若しそれを若い

人たちが曲解して真似をしたとしたら、とんでもないことだ。

お正月には私の家へ、泊りがけで来て頂くようお約束していたが、突然、奥様から心臓麻痺で急逝されたとの訃音に接し、万感胸にせまるものがあった。

神保さんは晩年恵まれず「和田君(元毎日放送重役和田精氏)がこんなズボンを買れやがんのよ」と懇とぞんざいな江戸弁で無雑作にいいながら、心の中では遠山さんや小川さん達仲間の温かい友情を、ひとり涙しているような方だった。

生来の天衣無縫と潔癖と一徹さが、今の世代にはいれられなかったのだろう。然しご自身は実にてんたんとして清貧を樂しんでおられる様子だった。あの方の持って生れた徳ともいおうか。

色即是空、空即是色。いみじくもいたり、舞台照明は空間芸術そのもの。「色で仕上げた」長い純粋な先輩の生涯ではあった。

ほんとに惜しい人を失った。何故世の中は斯ういう人をもっと大切に出来なかつたのか。くやまれてならない。

X X X X X X X

本誌の校了間際に、お長女から原稿を頂いた。ペロリと舌を出す、おちゃっぴいでおきやんだったお嬢さんが、今はいよいよ賞録十分、堂々たるラテンシンガー御影あい子として、舞台上、テレビに活躍されているのも懐かしい。奥様はじめお家族お一同のご多幸を祈るや切である。

関西照明家協会

★昭和四十年年度

○八月十八日 第九回総会を日立サービ

センターにて開催。

出席者数 三十名

委任状数 一〇五名

(1)第九期役員理事九十五名の選出と決

定

(2)各種専門委員会委員の決定

(3)昭和四十年年度日本照明家協議会関西

地区新役員を次の通り決定。

岡田猪之介・上地一夫・竹本文蔵

○九月十三日

第九期第一回理事会

(1)滞納会費の徴収方法について検討。

(2)照明技術者の人件費改定のための小

委員会発足。

大阪北地区 上地一夫 熊沢 章

大阪南地区 佐竹啓三郎 宮本 修

神戸地区 奥田春一(委員長)

京都地区 木村嘉次

(3)会員証発行の原案発表

(4)舞台・TV照明器具名称記号の関西

案発表

(5)第九期役員依頼状を各役員に郵送

○十月十三日

第九期第二回理事会

(1)会員証原案決定 印刷開始

(2)照明臨時人件費について当理事会で

は、照明技術者の資格向上のためにも、

又生活保障のためにも貸金アップの必

要ありと認め、今後全国的に統一され

た貸金とする必要ありとして日本照明

家協議会にはたつきかけるように推進

する。

(3)会員滞納者に対して再督促状発送

(4)日本照明家協議会会報第四号編輯委

員決定

岡田猪之介、宮本 修 以上二名

○十一月十日 奥田春一氏母堂御逝去。

告別式に岡田会長参列

○十一月十六日

第九期第三回理事会

(1)理事会は成立せず流会となったが、

当協会に現在未解決の各種問題点に

ついて討議された。

(2)会員証の発行配布

○十一月十六日 日本舞台テレビ美術家

協会関西支部長松田穂次氏御逝去告別

式に岡田会長他関係者参列

○十二月十三日

第九期第四回理事会

(1)会報第三号配布発表

(2)舞台・TV照明器具名称記号関西案

決定、日本照明家協議会に提示

★昭和四十一年年度

○一月十三日 新年交歓会を大阪観光ホ

テルにて開催。多数の会員が一同に会

し和気あいあいのうちに、照明新年度

の抱負を語り合った。

○二月十六日

第九期第五回理事会 於京都旅館

(1)協議会会報発行中間報告

テレビ美術展に関する報告(経費報告と

電気設備及工作に対して法令、条令の熟

知することに要望が出された)、照明家

のライセンスに関して、ハンドブックの

編集について。会費未納者に対する督促

に関する件。

☆十一月

○常任理事会

協議会会議の議案検討。新入会員資格

審査

○常任一委員会

記号統一委員会報告。ライセンス問題。

貸金問題。ハンドブックに関する件

(2)照明臨時人件費改定案として小委員

会より一ステージ一、四〇〇円、

二ステージ二、二〇〇円、三ステー

ジ二、八〇〇円と提案された。

(3)事業計画案

A、松下電器照明研究所見学

B、照明技術講習会

C、テキスト発行計画、等

D、全会員に直接関心のあるものを

主体として立案計画する。

○三月十二日

第九期第六回理事会 於神戸国際会館

(1)照明臨時人件費は二月二十五日専門

小委員会を開きかねてより提案され

ていた貸金改定案通り当理事会にお

いて承認決定された。

一ステージ一、四〇〇円以上

二ステージ二、一〇〇円以上

三ステージ三、八〇〇円以上

(ステージ区分は従来通り)

決定人件費の実施依頼書は三月中旬に

印刷配布の準備

(2)協会運営方法と今後の問題について

検討

(3)総会準備についての話し合いが行われ

る。

○三月 東京で開催された日本民放連主

催・第一回テレビ制作技術研修会に、

岡田猪之介氏は照明講師として参加。

○三月三十一日 サンケイホールにて執

行の故法村康之氏告別式に、岡田会長

参列。

(遠山静雄、近藤一郎両氏を推薦した)

新入会員資格審査。総会に関する件。

○東宝演劇部長より通知

照明設計料の最低保証歩率採用に関

して二月より実施する旨との通知があっ

た。

舞台テレビ照明家協会

★六月

○常任理事会

舞台テレビ照明器具名称記号統一委員

会報告。部会活動に関する件(協会活動

促進の手段として部活動の活性化を図り

運営に反映する方法について検討)。劇

界功労者推薦に関する件、当協会として、

遠山静雄氏、丸茂富治郎氏を推薦した。

○訪中公演日本新劇団に随行した秋本道

男、氏仲介、秤屋和久の三氏が、又ソ連

に日本歌劇団に随行した梶孝三氏が帰国

した

☆七月

○常任理事会

講習会、懇親会開催に関する件。部活

動について

○理事会

舞台テレビ照明器具名称記号統一委員

会報告及審議。訪中新劇団随行者による

中国の劇場及器具についての見聞話。講

習会。懇親会について(実施に移すこと

に決定)。部活動について。

○日本演劇協会十五周年記念行事に遠山

静雄、丸茂富次郎の両氏が表彰された。

☆八月

○常任理事会

舞台、テレビ照明器具名称記号統一委

員会報告。会報の中間報告。舞台、テレ

ビ美術展覧会開催協賛に関して。新入会

員資格審査。

西林正美(以上二名国際劇場)、山本貞

夫(飯山市民会館)、落合武文(サンケイ

ホール)、木下義香(磐城市民会館)、植

村康雄、野沢隆夫(以上二名NHK)

○退会者(六〇四一年一月迄)五名

遠島鎮、頼実啓一、井上延一、森能浄、

金子昭夫

舞台テレビ照明家協会

★昭和四十年年度

○八月十八日 第九回総会を日立サービ

センターにて開催。

出席者数 三十名

委任状数 一〇五名

(1)第九期役員理事九十五名の選出と決

定

(2)各種専門委員会委員の決定

(3)昭和四十年年度日本照明家協議会関西

地区新役員を次の通り決定。

岡田猪之介・上地一夫・竹本文蔵

○九月十三日

第九期第一回理事会

(1)滞納会費の徴収方法について検討。

(2)照明技術者の人件費改定のための小

委員会発足。

大阪北地区 上地一夫 熊沢 章

大阪南地区 佐竹啓三郎 宮本 修

神戸地区 奥田春一(委員長)

京都地区 木村嘉次

(3)会員証発行の原案発表

(4)舞台・TV照明器具名称記号の関西

案発表

(5)第九期役員依頼状を各役員に郵送

○十月十三日

第九期第二回理事会

(1)会員証原案決定 印刷開始

(2)照明臨時人件費について当理事会で

は、照明技術者の資格向上のためにも、

又生活保障のためにも貸金アップの必

要ありと認め、今後全国的に統一され

た貸金とする必要ありとして日本照明

家協議会にはたつきかけるように推進

する。

(3)会員滞納者に対して再督促状発送

(4)日本照明家協議会会報第四号編輯委

員決定

舞台テレビ照明家協会

★昭和四十一年年度

○一月十三日 新年交歓会を大阪観光ホ

テルにて開催。多数の会員が一同に会

し和気あいあいのうちに、照明新年度

の抱負を語り合った。

○二月十六日

第九期第五回理事会 於京都旅館

(1)協議会会報発行中間報告

テレビ美術展に関する報告(経費報告と

電気設備及工作に対して法令、条令の熟

知することに要望が出された)、照明家

のライセンスに関して、ハンドブックの

編集について。会費未納者に対する督促

に関する件。

☆十一月

○常任理事会

協議会会議の議案検討。新入会員資格

審査

○常任一委員会

記号統一委員会報告。ライセンス問題。

貸金問題。ハンドブックに関する件

○滝尾輝雄氏胆石のため入院治療

○斉藤政雄氏歌舞伎ヨーロッパ公演随行

の処帰した。

○上条甲午殿十一月七日脳溢血のため死

去

☆十二月

○常任理事会

協議会報告。会員証書発行の件。記号

統一に関して。名称変更の件。協会費改

正の件。総会準備の件。国立劇場の舞台

照明機構に関する件

○理事会

協議会報告。ハンドブック作成に関す

る件(理事会として、舞台、テレビ照明家協会)の名称

を採択総会に提案することになった)協

会費改正に関する件(事務局案をプロ

舞台テレビ照明家協会

★昭和四十一年年度

○三月三十一日 サンケイホールにて執

行の故法村康之氏告別式に、岡田会長

参列。

(遠山静雄、近藤一郎両氏を推薦した)

新入会員資格審査。総会に関する件。

○東宝演劇部長より通知

照明設計料の最低保証歩率採用に関

して二月より実施する旨との通知があっ

た。

☆一月

○理事会

報告事項。四十年年度決算報告。四十一

年予算審議。来期理事選出方法に関して。

総会期日会場の確認。会員証発行に関す

る件。新入会員資格審査。退会者報告。

☆二月

第十一回総会開催二月二十二日歌舞伎

座地下食堂午後九時三十分出席者九十

名委任百二十一名、賛助会員四会社出席、

十一時二十五分閉会。議題。名称変更、舞

台。テレビ照明家協会に決定。

会費改正、百二十円、に決定。

来期事業計画

舞台・テレビ照明器具、名称記号表記

布四月より実施。ハンドブックの発行遂

行。照明技術向上に重点を置くことにな

り、これに関連した事項を計画すること

になった。

理事選出 五十九名決定。

○新入会員(六月〜四十二年一月迄)十

四名

外崎俊彦、北村晃二(日比谷照明)、春原

悟(長野市民会館)、小林勇雄(上田市民

会館)、清水義方、田中暢(以上二名統一

劇場)、宮川光弘(NTV)、佐藤照鏡、

なる。

舞台テレビ照明家協会

★昭和四十一年年度

○三月八日午後一時 中央区立銀座東区

民館

議題

四十一年度運営方針

協会の発展に力を入れるとともに、

未入会の照明従事者が自発的に入会を

希望し、又協会が抵抗なく会費納付

に率先推進できる権威ある協会にする

には、どのように協会を進めるか、協

会の本質にも触れ、会員の地位向上を

図る上にも、会員の技術向上に最重点

を置き、これに関連して、ハンドブッ

クの発行を完遂し、ライセンス問題に

アプローチする方針を討議してゆくこ

とになった。

昭和四十年年度

三月 相談役の笹崎岩雄氏が協会を

引退、南方へ文化映画の仕事で出発。

TV研修会に出席会員からの研修報告会。

☆七月 訪中東海地方文化代表として若尾正也氏が訪中。八月十二日船中。若尾氏の船中報告会に、有志会員出席。東京産経会館に於ける松崎国雄氏の四十年祝賀会に中部より、拓植、高橋、本多の三氏出席。九月 全国照明器具名称統一に関し記号統一委員会(代表神谷弘次)にて検討。中部案を決定し、東京へ送る。

十二月 常任理事会を開き総会準備に入る。拓植氏、全国協議会常任理事会に出席、報告、全国紙発行の準備にかかる。中日高校演劇コンクール審査員に拓植、若尾両氏出席。昭和四十一年度

☆一月 理事会を開き、総会議事その他について協議。総会を開く。(一月二十八日) 新年度役員決定。(別紙)

☆二月 全国記号統一決定、配布。会員登録発行委員会(代表神谷)により発行準備、中部の名称を中部舞台テレビ照明家協会(略称)中部照協とする。全国誌第六号発行の編集部を組織。代表丸田氏で準備に入る。

昭和三十一年二月の総会の際、協会の年度事業内容の中に、この照明器具の名称記号制定と云う項目があり、理事達が集り委員会を組織し、私がその委員長を仰せつかりました。名称とか記号とか云うものは後々まで残ると同時に、第一にいいやすいこと、使いやすいことではなくてはならない点から東京の各委員(秋山易三、和田光弘、斉藤政雄、篠木佐夫、滝尾輝雄)を中心として、関西及び中部の小委員会の協力を得て、慎重な協議と全国の会員の意見及世界の照明界の現状も十分考慮して約二ヶ年の歳月をかけて今度の制定までにこぎつけたわけです。実施は昭和四十一年四月一日よりで、それまでに全員の手もとにこの一覧表が届くように目下事務局が手配中です。

☆この制定の原本は、協会が発足の当初に舞台照明記号一覧表なるものを作制しているもので、それを種本としてその名称記号の不備な点や、再確認をしながら約一ヶ年をかけて委員会できとめた第一案(昭和四十年二月)を作制しました。

日本での名称記号ではなく、少しでも世界に通用するものを作るために、国際照明委員会(CIE)の事務局長パーケリー氏にその旨通知したところ、国際照明委員会でも偶然に世界の舞台テレビ照明器具名称記号統一の動きがあり一九六五年四月にチェコのプラハでその会議が開かれるから、日本からも是非出席を乞う旨連絡がありました。日本では前記日本の委員会で作制した第一案を提出し、書類のみの参加をしました。

照明器具名称記号の制定について

制定委員会委員長 大庭三郎

本では少し不向きな記号もあるので、使いやすいと言う原則に従ってここに第三案(昭和四十年十一月)を作制して日本照明家協議会に提出しました。☆昭和四十年十二月大阪(宝塚)で開かれた日本照明家協議会は、東京、関西、中部の事務局及役員の各位が慎重に審議した結果、各地の総合的な意見は一致をみましたが、細部に二二三の修正を行って、これを決定した決第です。

舞台・テレビの名称記号は時代と共に少しずつ変遷をしていますが、新しい器具や光源が出現したり、又新しい名称記号が漸次追加されることでしょう。

又この名称記号の制定は、協会で会員の皆さんの総力で決定を見たもので、いわば会員諸氏の研究並に商売道具の一つで、誰のものでもなく会員各位のものであることを考えて、日本全国で誰の照明プランを誰が見ても、判然とする日が一日でも早ければ、それだけ舞台並テレビの照明の仕事が能率的に解決されることになりませう。この日の一日も早からんことを祈って制定についての報告と致します。

☆世界の演劇舞踊界の交流を見て、

舞台・テレビ
照明器具名称記号

昭和41年4月1日制定

	名称	略記	記号	摘要	
器	フットライト	F	(a) (b)	(a) 舞台の照明器具設備の平面図に正式に記入される場合。 (b) 舞台の照明設計などで舞台の片側に略記される場合	
	ポーターライト	B	(a) (b)		
	アップーホリゾントライト	UH	(a) (b)		
	ロアホリゾントライト	LH		LHの開きは大略45度とする	
	スポットライト (平凸レンズ)	Sp		#15 1K 容量・回路番号及び色番号を示す	
	" (フレネルレンズ)				
	" (アーク)				
	プロフィールスポットライト (ピンスポットライト)				
	" (アーク)				
	具	スポットライトスタンド式			例 はフローアースとする
フォロースポットライト				例	
サスペンションスポットライト (平凸レンズ)		Sus.Sp.	○		
" (フレネルレンズ)			◎		
" (方向)			←	例 ←○	
サスペンションフラッドライト			⊕		
フラッドライト		Fd			
" (スクープ)			D		
小型フラッドライト (エレジ. ジェード等)			㊄		
レフレクタースポットライト			D		
部	バンクライト			例 方向は矢印 (上部より下面照射の場合は矢印なし)	
	ストリップライト	Str		Strの開きは90度とする	
	エフェクトプロジェクター				
	バンドア			例	
	パンタグラフ				
	光源の部	シールドビーム			
		蛍光灯	FL	ⓕ	
		ブラックライト	UV	Ⓢ	
		ヨーソランプ	J	Ⓝ	
	設置場所の表示	ステージ	Stage		バルコニー
サスペンション		Sus		タワー	Tow
フロント		Fr		トウメンター	Tor
センター		Cent		ギャラリー	Gal
シーリング		Ceil		フット	F
上手		L		下手	R

舞台テレビ照明器具名称記号について

長年の懸案だった略記号も、皆様のご努力によって漸く決定しました。皆様は既に使い馴れた自己流の記号があり、暫らくの間、統一記号に馴染みにくいと存じますが、漸くの思いで統一されたのですから、その意義を十分くみとられ、今後の照明プランは、必ず統一記号によって実施されるよう、熱意ある御協力を期待します。

喜多川信男
前田 紘
酒井 健彦
8名

☆毎日ホール

北区堂島中1丁目
(361-1341)

○落合 公輝
小林 博男
佐下橋正典
林 進
4名

☆森の宮
厚生会館

東区森の宮西之町654
(942-2441)

○木本 敏夫
水木 洋
中倉 敏博
岡本 利一
4名

☆毎日放送
テレビ

吹田市山田下297
(388-1341)

○大西 朝夫
奥野平八郎
小沢 満
○柿原 啓二
川島 康治
郡 森昭
森崎 型三
吉野 徳義
8名

☆読売テレビ
放送

北区岩井町2-74
(352-2221)

○岡田猪之介
岡島 英次
尾西 信雄
笠井 宏一
○岸本 敬二
楠山 恵司
高田 悦夫
田端 能明
平川 治男
藤川 敏雄
松永 隆
松本 晴美
三石日出夫

☆クラブパロン

北区梅田町15
(341-3456)

岡野 忠雄
◎金藤 繁人
林石 肇
鳥取 誠一
4名

☆小林照明
研究所

旭区今市町2-168

上畑 裕俊
岡地 宗治
小倉 恒男
○小林 敏樹
渋谷 順
畑瀬 一身
村田 隆夫
柳原 外文
山本 勇
林 史雄
10名

☆サンケイ
ホール

北区梅田町27
(361-1271)

○熊沢 章
清水 幸三
○末光 照夫
中地 健一
三上 三治
山本 健三
6名

☆宝塚大劇場

宝塚市武庫川通
(宝塚6-3020)

岸本 武雄
○北辻 芳一
久保安太郎
柴田 辰美
◎中路間 茂
5名

☆東京舞台照明

旭区大宮西之町1-78
(952-0343)

上西 直忠
○上地 登
清水 一男
土山 道郎
松村 守

重津 亘良
横川 利男
10名

☆梅田コマ
スタジアム

北区角田町5
(341-2938)

◎高田 東作
○鳥居 秀行
2名

☆大手前会館

東区京橋前之町2
(941-1201)

○伊東 政国
1名

☆岡田照明
研究所

枚方市屋ヶ丘497-8
(枚方41-4072)

市川 亜夫
小島 賢一
田中 昌春
○中尾 辰雄
4名

☆関西アートセ
ンター(KAC)

北区西堀川町25
(312-9656)

○犬伏 蒼明
奥田 淑郎
牧 宏
3名

☆関西テレビ
放送

北区梅ヶ枝町51
(361-1312)

小川 智敬
北 昌
清水 秀雄
◎中田 節三
○松山 実
藤巻 弘
6名

☆クラブアロー

北区堂山町100
(361-0636)

○辻田 弘
森川 保男
大石 昌彦
3名

関西
照明家協会
(235名)

大阪北地区
計 108名

☆朝日フェステ
イバルホール

北区中之島2-22
(231-1951)

石橋 武夫
岡野 匡房
岡本 俊治
◎上地 一夫
武内 邦夫
波多野 博
森 博史
◎山城 宏之
柴尾 勝義
9名

☆朝日放送
テレビ

大淀区大淀町南2-2
(458-5321)

江端 明弘
◎加納 正良
○弘光 和彦
前羽 俊治
山本 甲
5名

☆OSミュージ
ックホール

北区角田町33
(361-0251)

○福田 充夫
1名

☆アーチュリ
プロダクション

東淀川区東三田町2-90

阿部 満
今井 功
○上田 浩
上田 丈一
上東 昭雄
奥田 悦行
小国 智市
沢田 亘雄

日本照明家協議会
三団体ブロック別会員名簿

◎◎は常任理事

☆明治座
中央区日本橋浜町2-21
(667-5151)
飯塚 勝美
大岡 定一
大和田 稔
小河 威博
落合 勝造
○小長井昭司
小林 文夫
斉藤 親一
富田 修好
成田 衛
○布川 重夫
藤代敏久爾
12名

☆日生劇場
千代田区有楽町1-12
(503-0271)
岩崎 克治
小倉 久雄
沢田 祐爾
鈴木 勝
藤本 久徳
○本田 恭二
本間 一
吉井 澄雄
8名

☆穴沢照研
ブロック
計 8名
☆穴沢照研
新宿区四谷2-1
斎藤ビル(351-7728)
○穴沢喜美男
氏 伸介
立木 定彦
3名

☆民芸
港区赤坂青山町2-27
(401-5131)
秤屋 和久
山内 晴雄
2名

☆文学座
新宿区信濃町10
(351-7266)
○梅田豪次郎
古川 幸夫
吉田 英雄
3名

☆国際劇場
台東区西浅草3-17-18
(843-5931)
○相原誠一郎
岡田 利雄
小川 秀夫
沖野 清
金子清次郎
北島 巖
佐藤 照義
鈴木玉太郎
鈴木登美郎
関 実
田中新之助
西林 正美
深谷正次郎
松下 秀夫
宮本 寛之
○山本 順三
吉橋 英一
17名

☆横浜ピカデリー
横浜市中区長者町6-88
(68-2886)
岸波 敏男
1名

☆東宝ブロック
計 4名
☆東京宝塚劇場
千代田区有楽町1-12
(591-1211)
大杉 幸茂
○松浦光次郎
2名

☆芸術座
千代田区有楽町1-14
(591-1211)
中野 鉄雄
1名

☆日劇MH
千代田区有楽町2-1
(201-2111)
丹羽 実
1名

☆東洋興行
株式会社
台東区浅草10-12
(841-5925)

小川 忠義
新藤 達哉
田川 作造
○比企 国明
4名

照明家協会
(東京)
舞台・テレビ
(350名)

☆松竹ブロック
計 42名

☆歌舞伎座
中央区銀座東4-3
(541-3131)
岩淵 御行
岡田 孝
玄葉 栄一
小林 幸一
○斉藤 政雄
滝口十四郎
鳥居 伸行
広瀬 辰夫
○真島 哲郎
9名

☆新橋演舞場
中央区銀座東6-9
(541-2211)
大石 敬
河合 潤二
玄葉 裕美
斉藤 信一
○相馬 清恒
柴山 陸郎
○塚原 清
豊島安太郎
二瓶 正吉
半沢 良雄
山崎 啄也
11名

☆芸術座
千代田区有楽町1-14
(591-1211)
中野 鉄雄
1名

☆松竹演舞場
台東区浅草1-25-16
(841-2006)
河西 祐浩
○小島 成夫
品田 親男
3名

☆浅草電気館
台東区浅草1-42-8
(841-2621)
神田 治男
1名

中国地区
計 16名

☆姫路厚生会館
姫路市手形山440
○井沢 明彦
堀川 慶二
2名

☆劇団姪人座
○西川 卓男
1名

☆篠本照明
研究所
広島市皆実町3-987-5
(4-5607)

○篠本 秀吉
篠本 豊
藤井 敏三
山中 清行
塩谷 悦朗
林 賀一
貞末 進
古本 克己
青山 幹生
9名

☆岡山市民会館
岡山市内上下10
○黒瀬 康充
1名

☆松江フリー
松江市中原町小片野
300-3
○桑谷 忠重
藤原 利治
小山 久
3名

☆関西照明家協
会賛助会員
関東電機 K K
バグナル社長・
越山 達
K K 日本照明社
K K 三社電機

☆新居浜市民
文化センター
新居浜市甲700番
○馬木 正勝
1名

☆徳島市文化
センター
徳島市城之内1
(3-2185)
○武田 重文
田村 弘
広沢 真治
宮野 貴司
4名

☆金沢市
観光会館
金沢市北本多町6番町27
○久松昭太郎
1名

☆金沢市
北国会館
金沢市並木町74
○小森 省三
1名

九州地区
計 4名

☆石橋文化
センター
久留米市野中町1015
○米替 誓司
1名

☆小倉市民会館
北九州市小倉区田町
○山下 正夫
1名

☆別府国際
観光会館
別府市北浜2丁目9番
○井元 淳一
1名

☆宮崎市民会館
宮崎市上野町3-1
(3-5195)
羽田野光一
1名

四国地区
計 6名

☆高松市民会館
高松市五番町2-15
○福井 苗一
1名

☆新居浜市民
文化センター
新居浜市甲700番
○馬木 正勝
1名

☆徳島市文化
センター
徳島市城之内1
(3-2185)
○武田 重文
田村 弘
広沢 真治
宮野 貴司
4名

大前 治通
植沢 年昭
加藤 洋一
○河村 金一
田辺 稔
坪井 哲夫
宝里 良昭
牧元 正
松浦 勉
矢野 宏
松邨 年雄
12名

☆すわらじ劇演
東山区山科四の宮
光京林内
○木村 進次
1名

☆南座
東山区四条大橋東詰
(56-1155)
○山岡景志郎
吉野 博
2名

☆弥栄会館
東山区祇園町南側
(56-1115)
○堀井 吾一
1名

☆先斗町
歌舞練場
中京区先斗町三条下ル
(22-2028)
○杉江 嘉一
杉江 吉夫
2名

☆S Y 京映
中京区四條通り新橋上ル
○連 正男
1名

☆京都松竹
ボーリング場
中京区三條通り桜町
(22-6487)
○水越 薫
1名

☆京都宝塚劇場
中京区河原町六角
○大阪 邦夫
1名

☆京都フリー
○成瀬 昇
新野 金義
松本 修
3名

☆神戸海員会館
生田区相生町1丁目
(4-8097)
○吉川 立三
1名

☆神戸電々会館
生田区相生町1-28
(4-1131)
○大沢美樹男
吉田 隆夫
2名

☆聚美館
兵庫区水木町1-35
(5-0633)
○櫻本 健一
渋谷 寿男
2名

☆神戸松竹座
兵庫区福原町89
(5-5203)
香川 住照
○中井 悟
平尾 芳雄
屋島 正信
4名

☆スバル座
兵庫区伴町2-27
(5-4750)
○川上 秀雄
1名

☆神戸松竹劇場
兵庫区中道通り1-23
(5-4404)
岸本 真二
○三宅 隆
岩本 政雄
3名

☆神戸フリー
山本 登
1名

☆京都都会館
左京区岡崎最勝寺町
(77-6051)
○木村 嘉次
1名

☆京都サービス
センター
京都府会館内
大角 二郎

☆松坂屋会館
浪速区日本橋3-45
(631-1378)
○前田 正二
1名

☆南街会館
南区難波新地5番町
(641-8531)
大平 伸
1名

☆メトロ
ポリタン
南区宗右エ門町6
(211-9131)
多田 房
横山 卓治
○美山 暉
山脇 輝之
西脇 勝
北中 克彦
6名

☆浪花座
南区西橋町12
(211-1431)
○森本 素正
山元 幹夫
今井 勝博
田中 久雄
4名

☆大阪フリー
村田 典之
林 恵介
○柳田 利一
種田 正宏
4名

☆大阪フリー
南区九郎右エ門町2
(211-1612)
○松倉 猛
1名

☆日本歌劇団
南区河原町1-1550
(641-0151)
○木本 要
1名

☆ニュー
ジャパン
南区九郎右エ門町13
(211-0832)
○土肥 英雄
1名

☆岸和田
市民会館
岸和田市岸城町
(岸和田2-4273)
○野村 泰信
1名

☆大阪興業KK
南区河原町1-1547
○森 正信
1名

☆新歌舞伎座
南区難波新地5
(631-2121)
喜多松太郎

☆千日劇場
南区難波新地3-1
(631-3131)
武田 光城
中多 正己
○宮本 修
瀬川 治宏
野村 昭二
5名

☆朝日座
南区東橋町1
(211-6431)
片岡慶二郎
○佐竹啓三郎
山口 健治
西原 征美
4名

☆中座
南区西橋町8
(211-1566)
○尾崎 慶夫
1名

☆大阪劇場
南区河原町1-1550
(641-0151)
○岡本 友秋
波須田三郎
2名

☆関西設備照明
港区桂町3-4
(572-0668)
魚谷 英司
奥野 直一
鹿島 俊彦
河本 康夫
岸本 光夫
高橋 俊一
津留 陸夫
増沢 周夫
森山 敬一
亀井 政一
葉山 英之
勝矢 藤
12名

☆日立ホール
南区心斎橋筋2-24-1
(211-1623)
岩崎 誠亮
飛田 将行
○奥野 悦久
3名

☆大阪興業KK
南区河原町1-1547
○森 正信
1名

☆新歌舞伎座
南区難波新地5
(631-2121)
喜多松太郎

☆大阪興業KK
南区河原町1-1547
○森 正信
1名

☆新歌舞伎座
南区難波新地5
(631-2121)
喜多松太郎

☆新歌舞伎座
南区難波新地5
(631-2121)
喜多松太郎

○宮本吉之助
3名

○宮本 修
瀬川 治宏
野村 昭二
5名

○尾崎 慶夫
1名

○岡本 友秋
波須田三郎
2名

○木本 要
1名

○松倉 猛
1名

○木本 要
1名

○土肥 英雄
1名

○奥野 悦久
3名

○森 正信
1名

○森 正信
1名

丸岡 末夫
西野 弘道
15名

大阪南地区
計 53名

○佐竹啓三郎
山口 健治
西原 征美
4名

○岡本 友秋
波須田三郎
2名

○木本 要
1名

○松倉 猛
1名

○木本 要
1名

○土肥 英雄
1名

○奥野 悦久
3名

○森 正信
1名

○森 正信
1名

照明家協会

(97名)

☆御園座

中区南園町1-12 (231-1301)

- 安田 儀雄
森川 信正
○宮田 窓一
加藤 立身
木村 春吉
5名

☆愛知県文化会館

東区久屋町8-8 (971-6963)

- 丸田 悦夫
須崎 啓
2名

☆中部日本放送

中区新栄町4-15 (241-8111)

- 太田 匡昭
○馬場 貞夫
○鈴木 竹守
日比野 鎮雄
伊藤 卓斉
安藤 重成
百武 邦明
松尾 成一
松本 勝己
9名

☆中日劇場

中区御幸本町通り2-24
中日新聞内中日文化センター劇場部
(201-8811)

- 柘植 貞輝
1名

☆準会員

- 下郷 勝美
1名

- 井上 延一
○岩崎 令児
遠藤 茂美
大越 靖雄
小川 俊朗
萩原 清二
○梶 孝三
刈屋 珠明
川崎ひろし
川端 一広
菊地 清介
木下 富雄
清水 義方
○高橋 吉正
田中 暢
竹井 崇
塚崎 嘉治
辻本 晴彦
富宿 菊正
外崎 俊彦
○前田 二郎
中本 猛雄
野尻ひろし
原田 新平
樋口 昌弘
三浦 宏之
柳瀬 和美
矢野 信吾
吉田 公二
吉本 一郎
米津 栄司
35名

☆名譽会員

- 上野 虎雄
近藤 一郎
遠山 静雄
3名

☆賛助会員

- 光研電気KK
三精輸送機KK
東京芝浦電気KK
KK中川商店
不二音響KK
フジテレビジョン
KK松村電機
妙光工業KK
村山裝飾舞台KK
森平舞台機構KK
KK竜電社

☆駿府会館
静岡市追手町266 (52-8704)
川村 勝
1名

☆吉原市民会館
吉原市伝法3618-55
鈴木 利一
1名

☆平塚市民センター
平塚市平塚新街930
間野 道男
1名

☆関東北部地区
計7名

☆上田市民会館
上田市大手町公園内 (2-0762)
小林 勇雄
1名

☆長野市民会館
長野市緑町 (2-4255)
春原 悟
1名

☆飯山市民会館
飯山市飯山公園内
山本 貞夫
1名

☆福島公会堂
福島市松木町1
関口 信
1名

☆桐生産業文化会館
桐生市織姫町1041-1
富岡 博
1名

☆栃木会館
宇都宮市塩田町357
平川賢次郎
1名

☆群馬音楽センター
高崎市高松町28
佐藤 恵男
1名

☆フリー
○浅沼 貢
岩城 弘
石井 尚郎
磯貝 充宏

○高野 敦夫
3名

☆東京文化会館
台東区上野公園1-2 (828-2111)
○青木 繁夫
榎 洋二
綿田 栄
3名

☆ホールブロック
計7名

☆東横ホール
渋谷区上通り1-3 (461-0111)
山口 達次
1名

☆都市センター
千代田区平河町2-6 (265-8211)
天野 万助
○田村 昭司
2名

☆草月会館
港区赤坂表町3-7
中野 雅充
1名

☆朝日生命ホール
新宿区角管2-103 (342-6705)
原 昌男
1名

☆虎の門ホール
千代田区千代田3丁目4
古藤 四郎
1名

☆文京公会堂
文京区春日1丁目16-21 (811-4076)
佐藤 元彦
1名

☆東海地区
計7名

☆静岡公会堂
静岡市追手町16-1
○石垣 栄吉
浦田謙二郎
江塚 東一
榎林 勝治
4名

- 田中直一郎
田中 睦泰
寺田 義雄
細 豊
○原 英一
樋口正一郎
前島 良彦
前島 幹彦
松井 啓
松本 主税
宮尾 益美
森谷 正一
八島 康文
山崎 数馬
横田 昭治
○吉田 豊
渡辺 一夫
41名

☆CKKミカド
千代田区有楽町三信ビル
211号中部観光KK内 (591-8582)
○石山 和夫
岩見 正雄
浦川 明郎
坂下 幸男
中島 政良
藤本 晴美
室屋 武
7名

☆共立講堂
千代田区一ツ樹1-3 (262-6036)
飯田 豊
大島 昭二
倉持 昭二
田中 輝二
○根本 清
松野 武
6名

☆厚生年金会館
新宿区番町19 (356-1111)
加藤 義雄
古谷 誠一
○別府 正雄
3名

☆産経ホール
千代田区大手町1-3 (231-7171)
岩品 健介
落合 武文

- 篠原 孝
○篠原 久
渋谷 吉行
杉浦 利夫
杉山 茂
杉山 秀夫
関本 光政
高橋 紀明
高羽 昇
長嶋 幸男
西谷 克忠
服部鉄之輔
晴山 実
樋井 修二
本俣 義久
松川 直弘
○丸岡 寿昭
南 健一
室中 洋一
初山 幸雄
山口 功
山根 貞雄
渡瀬 治夫
○和田 光弘
38名

☆東京舞台照明
港区新橋3丁目7-6 (591-1059・4824)
秋本 敬三
○秋本 道男
浅倉 芳子
浅古昭太郎
東 徹
今泉 依
○牛丸 茂
薄井 澄夫
○内田つとむ
大塚 満夫
大和田恵久
鬼 郁子
加藤 隆久
清井 敏秀
○工藤 次雄
小池 俊光
笹川 健一
○篠木 佐夫
清水 俊彦
関根 一郎
染谷 幸典
大胡 三郎
高津 清
滝尾 輝雄

- 辻井 一義
富樫 孝兼
○中村 哲也
羽村 滋也
牧 実
松村 清
18名

☆東京TV
港区赤坂1丁目 (584-3111)
山下 俊弘
1名

☆フジテレビ
新宿区市ヶ谷河田町7 (353-1111)
○鹿島 実
加藤 泰三
沼田 勝夫
3名

☆東京12チャンネル
港区芝公園18号地 (433-4211)
金子 能章
越野 一雄
小林 正夫
黒須 久雄
黒松 策郎
新村 定ム
萩原征四郎
高柴 章
○高柴 正夫
橋本 英一
10名

☆共立照明
新宿区花園町65三友ビル内
新宿区番町4 (351-7463・7546)
秋本 晃
伊藤 正雄
井上 功
○小倉 隆
○小原 清
○梶田 義昌
片瀬 一郎
片野 豊
加藤 一夫
木村 茂
五島 民夫
後藤 秀吉
佐藤 隆成
塩原 一昭

☆NHK技術現業局調整部
千代田区内幸町3-1 (501-4111)
稲垣 彰晴
江上 浩司
木下 正雄
篠田 昭二
高岩 稔
田村 弘
○土村 晶
戸出 英治
間中 秀夫
○植村 康雄
10名

☆日本テレビ
千代田区二番町14 (265-2111)
○青木 久一
赤司 彰三
稲葉 栄一
海老名幸彦
加田 直彦
片桐 隆之
加藤 郁乎
○河合 浩
関 真久
相馬 清三
高部 博
長田 光則
萩原 昭男
橋詰 義親
宮川 光弘
15名

☆日本教育テレビ
港区麻布材木町55 (403-3111)
天谷 英夫
石川 浩久
○石塚 哲郎
上野 好弘
植松 奉人
栗原 進
近藤 栄夫
佐藤 安弘
志村 昌彦
鈴木 秀
○高橋 英吉
高柳 武雄

☆読売ホール
千代田区有楽町1-13 (231-0551)
植草 卓爾
1名
☆第一生命ホール
千代田区有楽町1-9 (261-3810)
葛生 輝夫
1名
☆ビデオホール
千代田区有楽町1-7
今井 博
1名

☆田中舞台照明
杉並区上荻町1-187 (391-8422)
田中 恒雄
伊藤 裕爽
○加藤 光治
3名

☆松崎照明
港区西新橋1-10-10 (501-9375)
秋山 易三
伊藤 典
○稲垣 学
上谷 昭之
小竹 命
須貝 勝
鈴木 紀一
○松崎 国雄
松崎 康通
9名

☆A・S・G
港区西新橋1-20-3
千島ビル内(591-6070)
青方 浩人
石井 啓友
○小林 昭
鈴木 晴雄
関根 憲一
平田 尙文
藤本 公一
7名

☆日比谷照明
千代田区日比谷公園
日比谷公会堂サービス内 (591-6567)
○阿部吉之助
北村 晃二

☆有馬照研
港区新橋4-29-9 (431-0134)
○有馬 裕人
上田 瑠美
衣斐 郁夫
河野 幹雄
川本 周二
久利 宏
小旗 章
塩見 伯方
星 金次郎
9名

☆今井照研
世田ヶ谷区玉川奥沢3-266
田園マンション519号 (702-5657)
○今井 直次
青木 哲夫
新川 順吉
藤野 光明
4名

☆大庭照研
大田区菅ヶ谷756 (729-7746)
○大庭 三郎
○稲垣 勝彦
大森 重夫
岡田 忠幸
金井 秀男
栗山 隆
佐藤渡美子
橋本 孜
福島 勉
丸山 久郎
宮城 昭雄
11名

☆小川照研
計9名

☆小川照研
千代田区丸の内3-2
新東京ビル550室
愛久沢事務所内 (216-2077)
○小川 昇
太田 弘道
○大野 洋
小林 君子
根本 好章
竜前 正夫
6名

43頁ブロック別会員名簿東京分訂正箇所

- 舞台テレビ照明家協会 (372名) とする
- 歌舞伎座 追加・常監○斉藤政雄 削除・◎相馬清恒
- 新橋演舞場 追加・事務局長◎相馬清恒 削除・◎斉藤政雄
- 東洋興業KK 台東区浅草2-1-12とする
- 穴沢照研ブロック計8名、を削除
- 穴沢照研・民芸・文学座を枠で囲む
- 文学座 ○梅田豪次郎を○梅田濠二郎とする

44頁訂正箇所

- 有馬照研 上田瑠美を福田瑠美とする
- 文学座のあとに追加
 - ☆グループSLS 秋田 勲、○浅沼 貢、伊藤良一、加藤正一、河野竜夫、皿田圭作、対馬勝衛、手塚淑人、中井清寿、中村吉孝、中山 功、原田新平、樋口昌弘、藤本 哲、渡辺省吾 15名
- 大庭照研 削除・福島 勉 10名とする
- 小川照研 会長・小川 昇とする
- ヴィデオホール 追加・電話 (281-4861)
- 松崎照研 追加・大塚基夫、小池 堯、越野一雄、菱山 勇、松崎康通、峯岸文次
削除・伊藤 堯、森熊 淳
訂正・監○松崎国雄 13名とする
- A・S・G 追加・小沢建夫、小柳 衛、森熊 淳、山田隆彦 11名とする
- 日比谷照明 追加・福田 勇、削除・北村晃二、滝 博夫 2名とする
- NHK 追加・野村隆夫 11名とする
- 東京12ch 削除・越野一雄 9名とする
- 共立照明 理事長・和田光弘とする

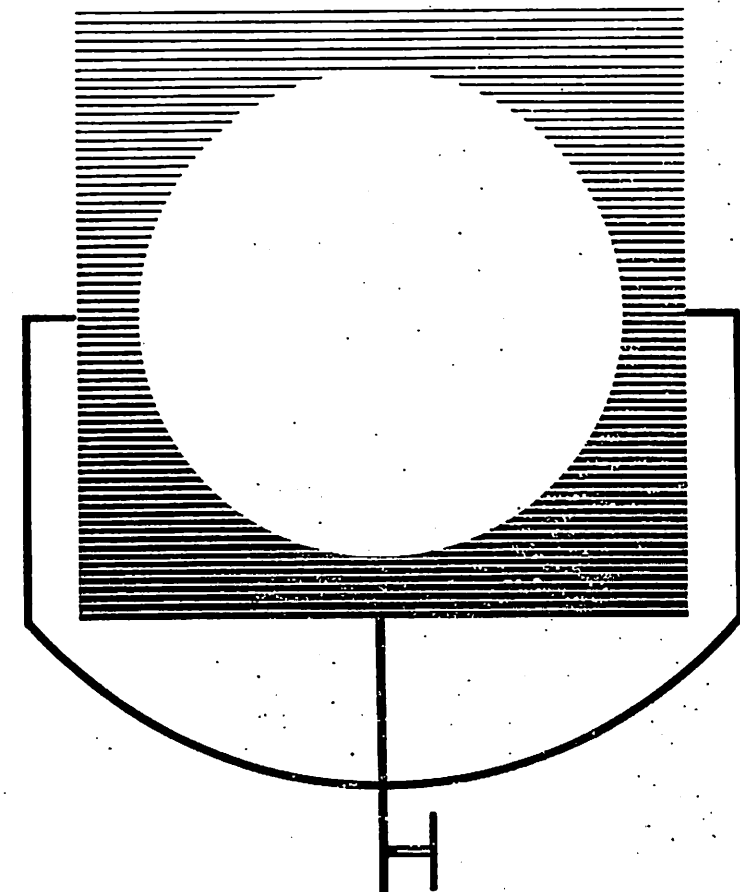
45頁訂正箇所

- CKKミカド 削除・室屋 武 6名とする
訂正・CKKミカドをCKKとする
- CKKのあとに追加
 - ☆ミカドライティングサークル
港区赤坂新町3-45 近畿観光ミカド TEL: 583-1101
北寄崎嵩、木下富雄、浜口洋次、福島 勉、室屋 武 5名
- 産経ホール 削除・松崎康通 3名とする
- ホールブロック 計8名とする
追加・草月会館 電話 (408-1126)
虎の門ホール 電話 (580-1251)
☆東京証券会館
中央区日本橋茅場町1の14 TEL: 667-9211
滝 博夫 1名
- 関東北部地区 計8名とする
追加・☆磐城市民会館、木下義昌 1名
- フリーを☆フリーブロックとする
削除・浅沼 貢、井上延一、木下富雄、原田新平、樋口昌弘 30名とする

御 詫 び!!

東京の事務局より御連絡頂いた時は、既に印刷中で、止むを得ず追加・訂正分の別刷を作製しました。
おわかりにくいと存じますが、本誌43~45頁御参照の上御訂正下さい。
改めて連絡の不備、不行届きの点御詫び致します。

(昭和41年4月28日 編集部)



日本照明家協議会